

聖徒の道

4
1994



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1994年4月号



表紙——ジェニー・フリンと仲のよい馬。
イギリス、ブロードウェイに住むフリン
家の人々は、農場の厳しい労働によって
家族のきずなを強め、自立の精神を培っ
ている。(本誌「愛と福音で編み上げる」
p. 38参照。写真撮影/リチャード・M・
ロムニー)

こどものページ——
絵/ナンシー・シーモンス・クルークス
トン

一般

大管長会メッセージ——「わたしが生きるので、あなたがたも生きるからである」 大管長エズラ・タフト・ベンソン	2
中国からの宝物 ジェニー・シェイラー	8
キリストを証した予言者たち D・ケリー・オグデン, R・バル・ジョンソン	10
教えるひととき メアリー・モリル	24
罪と苦しみ ダリン・H・オークス	26
ジョセフ・スミス記念館	34
手と心の目で見て ケオン・テッド・ヌーアン	44

青少年

ブロンクスの少年 エライザ・タナー	20
歌詞 ページ・マリオット	33
愛と福音で編み上げる リチャード・M・ロムニー	38

定期特別記事

読者からの便り	1
家庭訪問メッセージ——聖餐を通して救い主を思い起こす	25

こども

モルモン経物語——ゾーラム人とラメアムトム	2
小さなお友だちへ——サム・K・島ぶくろ長老	5
分かち合いの時間——「いましめをまもりなさい」 ジュディ・エドワーズ	8
メキシコより愛をこめて	10
ピーターのふっ活祭メッセージ ゲイル・エリス作	12
せいさんの本 クリスティーン・ブランチ	15

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシントン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット

編集長：レックス・D・ピネガー、ジョー・J・クリステンセン

顧問：ウィリアム・R・ブラッドフォード、スペンサー・J・コンティ、ジョン・H・グロバーク

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー

グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ

国際機関誌

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集補佐/こどものページ：ティエーン・ウォーカー

工程管理：メアリー・アン・マーティンデール

アートディレクター：スコット・バン・カンペン

デザイナー：シェリー・クック

制作：レジナルド・J・クリステンセン、ジェニファー・ダットワイラー、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー

予約購読スタッフ

購読管理ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

配送部長：ジョイス・ハンセン

マーケティング部長：ケント・H・ソレンセン

聖徒の道 1994年4月号第38巻第4号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

株式会社 精興社/クロスロード

印刷所

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約 1,100円(送料共)

普通号 150円、大会号 350円

Copyright © 1994 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1991年10月 翻訳承認—1991年10月 原題—International Magazines April 1994. Japanese. 94984 300

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

〒106 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

株式会社 精興社/クロスロード

印刷所

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約 1,100円(送料共)

普通号 150円、大会号 350円

Copyright © 1994 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1991年10月 翻訳承認—1991年10月 原題—International Magazines April 1994. Japanese. 94984 300

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

〒106 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

株式会社 精興社/クロスロード

印刷所

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約 1,100円(送料共)

普通号 150円、大会号 350円

読んで、分かち合う

「リアホナ」(スペイン語版)とそこに掲載されている愛と知恵に感謝しています。毎月熱心に読んでいます。

教会員になって20年近くになります。しばらく教会を休みがちな時期もありましたが、すばらしいふたりの宣教師のおかげで今では毎週活発に教会に集っています。私の8人の子供のうち4人にバプテスマを施してくれたのも彼らです。

所属していたワード部の集会所は、私の住む街から幾分遠く、聖餐会に集うのはあまり容易ではありませんでした。そこで私は、我が家の車庫を整理し、地元の会員のための集会所として提供しました。現在では毎週30人から40人の会員が聖餐会に集う支部となりました。

私たちの成長を助け、友人に分かち合うことができる「リアホナ」に感謝しています。

アルゼンチン、ロサリオステキ部
サラディオワード部
マリア・ビルヒニア・ヒメネス・デ・ローリノ

主は私を祝福してくださっています

私は80代の姉妹ですが、福音のメッセージに心から感謝しています。福音は、1977年に我が家を訪問してくれた宣教師を通して、私の生活にもたらされました。モルモン経と聖書の双方の教えを読み比べるとき、いつも喜びを感じます。

天父が私を祝福し、慰め主、すなわちすべてのことを教える聖霊(ヨハネ14:26参照)を遣わしてくださいことに感謝しています。

とりわけ、「リュス・オーベル・ノルゲ」(ノルウェー語版。「ノルウェーの光」の意)にも感謝しています。世界じゅうの聖徒たちの証を読むことを

楽しみにしています。

ノルウェー、オスロステキ部
フレドリクスタッドワード部
ヘリーナ・オルセン

結婚生活に関する真実

1993年の2月号に掲載されたメルビン・L・ブルーイト兄弟の記事「あなたの伴侶の幸福」の賢明な勧告に感謝しています。おかげで結婚生活に関する真実について初めて理解できました。また、心機一転する動機づけにもなりました。

毎号、「リアホナ」(スペイン語版)は私を導き、真の改宗に至る道を歩ませてくれます。掲載されている福音生活のさまざまな模範は、いつも私の靈感の源となっています。

ペルー、チクラヨ
ペルー空軍
エスタニスラオ・ルナ・サンチェス

高められます

「リアホナ」(スペイン語版)は私たち一人一人にとって非常に大きな助けとなっています。

私は16歳ですが、聖典や教会の出版物を読むのにあまりに時間を費やしているので、私のことを「退屈な人」と考えている人もいます。でも私はこれらの書物を読むのはすばらしいことだと思っています。これらの書物は私を高め、毎日の生活に力を与えてくれるからです。

1993年5月号の記事「主役」はためになりました。ベッキー・ジャクソン姉妹は、高校のミュージカルで不道德な歌詞を含む歌を歌うのを拒みました。彼女の模範はこれからも私にとって大きな助けになることでしょう。

グアテマラ、ウタトランスステキ部
アーナ・エルビア・リマ・オレヤーナ

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year, \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.



「わたしが生きるのに、 あなたがたも 生きるからである」

大管長
エズラ・タフト・ベンソン

最近、死後の世界の実在を証明するかのようなささまざまな体験談がマスコミなどで頻繁に紹介されるようになってきています。古代の予言者が幾世紀も前に発した、「人がもし死ねば、また生きるでしょうか」(ヨブ14:14)という疑問が、人々の間で再び問い直されているのです。これは言い換えれば、「人は死んだらどうなるのだろうか」ということです。この疑問に対する明確な答えは、十字架の刑、死、埋葬に続く、救い主の霊界における働きの中に見いだすことができます。

天父は、この世に死を招き入れたアダムの墮落が起るより以前から、いつかは必ずこの世を去る人間のために、ひとつの場所、つまり霊界を備えていらっしゃいました。イエスが亡くなられた当時、霊界には、アダムの子や孫の時代からイエスの死に至るまでの間に死んだ御父の子供たちが、義人も悪人も含めて、数多くいました。

霊界は大きくふたつに分かれていました。義人の霊は幸福と平和、安らぎに満ちた状態のパラダイスに行き、悪人の霊は闇やみと悲しみの獄へ行きました。(アルマ40:12-15参照)イエスが行かれたのは、義人たちの所、すなわちパラダイスだけでした。

次に引用するのは、ジョセフ・F・スミス大管長に授けられ、1976年の4月に



主は生きておいでになります。ですから私たちも生きることができます。主が生きておられるがゆえに、私たちが幕のこちら側で享受している愛や家族の交わりは永続するものとなり得るのです。私たちの家族にこの真理を教えましょう。

聖典として教会員に受け入れられ、支持された、輝かしい、死者の贖いに関する示現の一部です。

「おびただしい数の義人の霊がひとつ所に集まっていた。彼らは死すべき世にあった間イエスの証に忠実であった者たちであり、

……贖い主のみ名のゆえに艱難を受けた者たちであった。

これらの者はすべて……栄えある復活に確固たる望みを抱きつつ世を去った者たちであった。

私は彼らが歓喜に満ち、解き放たれる日が目前に迫っていることを共に喜んでいるのを見た。

彼らは集まって、神の御子が霊界に来て死の縄目からの贖いを宣言したもうのを待っていた。……

この大群衆が死の鎖から解き放たれる時を喜び、互いに語り合いながら待っていると、神の御子が現われたもうた。そして忠実であった捕らわれ人に自由を宣言し、

また永遠の福音、復活の教義、墮落からの人類の贖い、悔い改めを条件とする個人の罪の贖いについて彼らに教えを説かれた。

そして聖徒たちは、自分たちの贖いを喜び、ひざをかがめ、神の御子が死と地獄の鎖からの贖い主、解放者であることを告白した。

彼らの顔は輝き、主のみ前より放たれる光が彼らの上にとどまった。そして彼らは主の聖きみ名を賛美した。」(ジョセフ・F・スミス——死者の贖いに関する示現 1：12-16, 18-19, 23-24)

イエスは邪悪な人々のところ、すなわち獄へは行かれませんでした。そこにいるのは悔い改めをせず、「肉体を得ていた時に自らを汚して」いた人々でした。(同1：20)

さらに次のように書かれています。「主は義人の中から軍勢を組織し、使者を任命して権威と権能とを与え、闇の中にいる者たち、さらにはすべての人の霊のもとに福音の光を携えて行くよう命じられた。このようにして死者に福音が宣べ伝えられた。……

これらの者は、神を信じる信仰、罪の悔い改め、罪の赦しを受けるための身代わりのバプテスマ、接手により授かる聖霊の賜について教えを受けた。

またこのほかに、肉においては人間として裁きを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるための資格を得る上で知っておかねばならない福音のすべての原則が教えられた。」(同1：30, 33-34)

霊界は遠く離れた所にあるわけではありません。主の目からご覧になれば、それは幕の両側にわたる、完全に一体となった壮大なプログラムなのです。現世と来世を隔てている幕が、非常に薄くなるのがときどきあります。私はそのことをよく知っています。この世を去った愛する人々は、私たちから遠く離れた場所にいるわけではありません。

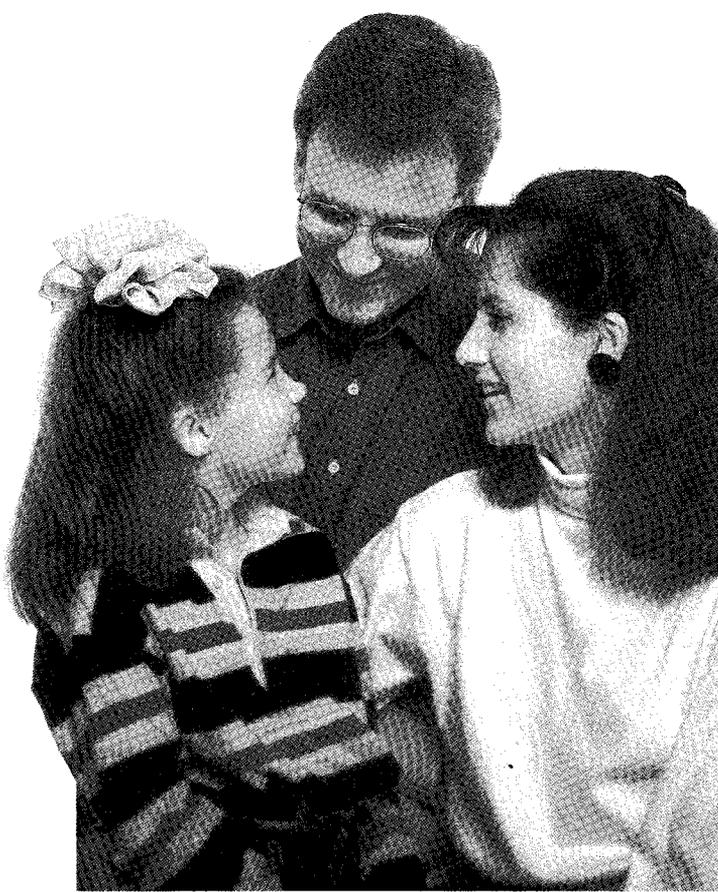
ある大管長は、「一体霊界はどこにあるのだろうか」と問い、みずからこう答えています。「霊界はここにある。……〔霊たちは〕この組織された地球の境界を越えたかなたへ去るのだろうか。いやそうではない。彼らは永世にわたってここに住むために、この地球に遣わされているのだ。……霊が体を離れた時、彼らは父なる神のみ前にある。そこで霊的な事柄を見聞きし理解する備えをさせられるのである。……もし主が許されるならば、またそれが主のみこころであるならば、あなたはこの世を去った霊たちを、今あなたが目で体を見るようにはっきりと、見ることができるであろう。」(ブリガム・ヤング「説教集」3：369, 368)

そうです、確かに死後の世界は実在するのです。この世の生涯は一時的なものです、それは霊界も同じです。死がこの世のすべての人々に訪れるように、復活も最終的には霊界にいるすべての人々に及ぶのです。

イエスの十字架の刑の3日後に、大きな地震があり、墓の入り口にあった石が転がされました。イエスに非常に熱心に従った人々の中にいた幾人かの女性が香料を持ってそこへ行くと、「主イエスのからだが見当らなかった。」(ルカ24：3)

そして天使が現われ、簡潔にこう言いました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」(ルカ24：5-6)この時の言葉に匹敵する劇的な言葉は、歴史の中のどこにも見いだせません。「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」

長い間にわたって数多くの人々に影響を及ぼす出来事は、歴史的に偉大な出来事と言われますが、この基準から考えると、一人一人の人間にとっても、国家にとっても、主の復活ほど重要な出来事はほかに考えられません。地上に生を受け、そして死んでいったすべての人がやがて復活するということは、聖典に述べられている確かなことです。そして人が備えをなすべき事柄で、これほど



PHOTOGRAPH BY JED CLARK

天の神はジョセフ・スミスを通して、家族のきずなは墓を越えて続き、お互いへの思いやり、やさしさ、愛を永遠のものにできるという真理を啓示されました。

注意を要することはほかにありません。栄光に満ちた復活は、すべての男女が目指すべきものです。なぜなら、復活は確かに起こることだからです。普遍性という点において、復活に勝るものはありません。命あるすべてのものは復活するのです。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」(Iコリント15:22)

主の栄光に満ちた復活のすぐ後で、マタイはこう記録しています。「墓が開け、眠っている多くの聖徒たちの死体が生き返った。

そしてイエスの復活ののち、墓から出てきて、聖なる都にはいり、多くの人に現れた。」(マタイ27:52-53)

そうです。イエス・キリストの復活は輝かしい事実なのです。キリストは眠れる者の初穂となり、ご自身が、予言者たちが予言したとおり、確かに3日目に墓からよみがえられたのです。そして「よみがえり」となり「命」(ヨハネ11:25)となられたのです。キリストは私たちすべての者のために死の縄目を解いてくださいました。私たちもいつか復活します。私たちの霊は肉体と再び結合し、決して分かれなくなります。

イエス・キリストの復活を証し、その真実性を宣言す

る言葉は数多くあります。多くの証人がいるのです。

主はよみがえられた後に、何人かの女性にみ姿を示されました。またエマオへ行く道の途中ではふたりの弟子に、そしてペテロ、使徒たちにもみ姿を示されました。パウロは次のように報告しています。「そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。……そして最後に、……わたし〔パウロ〕にも、現れたのである。」(Iコリント15:6, 8)

復活に続く40日の間に、主は時折そのみ姿を人々に示し、神の王国に関する事柄について教えをお授けになりました。主の語られたこと、行なわれたことで、記録されなかったことは数多くあります。しかし、ヨハネがはっきりと述べているように、「〔私たちが〕イエスは神の子キリストであると信じるため……、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るため」に記録されたこともあります。(ヨハネ20:31)

主は弟子たちに、間もなく天父のみもとへ上げられるということをお話しになりました。主はその昇天の時が近づいた最後の厳かな交わりの時に、弟子たちに教えを述べられました。

キリストは弟子たちとともに、マリヤ、マルタ、ラザロが住んでいた「ベタニヤの近く」まで行き、そこで「手をあげて彼らを祝福され」ました。(ルカ24:50)そして祝福しておられるうちに、主は天に上げられ、雲に迎えられて、そのみ姿が見えなくなりました。11人の使徒たちが天を見上げていると、白い衣を着たふたりの人が現われてこう言いました。「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう。」(使徒1:9-11)

使徒たちは敬虔な思いと大きな喜びに満たされて、エルサレムへ戻りました。確かに主は天に上げられました。主の復活が、まさしく霊が肉体に戻ることであったのと同様に、主の昇天は、肉体を持つ主との文字どおりの別れだったのです。いまや弟子たちは主の最後の言葉のいくつかをより深く理解し始めるようになっていました。「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ16:33)キリストによって墓の勝利は永遠のものでなくなり、死は打ち破られました。

主は今も生きていらっしゃいます。私はそのことを厳

肅に証します。そして、イエスはこの時代に地上を訪れておいでになるのです。復活されたキリスト、栄光を身にまとい高く上げられたキリスト、御父の下にこの世をお治めになる神が、1820年に少年ジョセフ・スミス Jr. にみ姿を現わされたのです。アブラハム、イサク、ヤコブの神、またモーセの神、この地球の創造主であるイエスが、この時代に地を訪れられたのです。天父はジョセフ・スミスにイエスを次のように紹介なさいました。「こはわが愛子なり、彼に聞け。」(ジョセフ・スミス 2:17)

私たちの中にも、父なる神と御子イエス・キリストのこの顕現は実際にあった出来事ではなく、ジョセフ・スミスの空想の産物であるかもしれないという詭弁を擁護する人々がいます。それは真実ではありません。それはジョセフ・スミスの証の真実性を覆そうとする試みです。またみずからの復活を証明するためにジョセフにみ姿を現わされたイエスご自身の証を否定しようとするでもあります。

父なる神と御子イエス・キリストのジョセフ・スミスへの顕現は、主の復活以後、この地上に起こった最も偉大な出来事です。回復されたイエス・キリストの教会として私たちは謙遜に、また喜びをもって、このことをすべての人に証します。それは真実であり、御父のすべての子供のために行なわれたことです。ここに、ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンによるさらなる証があります。ふたりはこの輝かしい示現を1832年の2月に授けられました。

「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。

われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。

すなわち諸々の世界は彼の手により、彼の手を経て、また彼に因りて先に作られ、また現に作られ、これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘なることを証したもう。」(教義と聖約76:22-24)

確かに、イエスはキリストです。イエスは死の縄目を解かれました。イエスは私たちの救い主、贖い主であり、まさしく神の御子です。イエスは、よみがえりの主として再び地上においでになります。その日が来るのは、そ

う遠いことではありません。救い主の文字どおりの復活を受け入れる人々にとって、死は人生の終わりではない、ということは明白です。主はこう約束しておられます。「わたしが生きるので、あなたがたも生きる……。」(ヨハネ14:19)

末日の啓示を信じ、受け入れる私たちにとって、主の復活にはまた別の意義があります。天の神はジョセフ・スミスを通して、家族のきずなは墓を越えて永遠に続き、お互いへの思いやり、やさしさ、愛を永遠のものにできるという真理を啓示されたのです。この神権時代の初期の使徒パーレー・P・プラット長老は次のように書いています。

「私に、父母、夫婦、兄弟姉妹、息子と娘の愛にあふれたきずなの尊び方を教えてくれたのはジョセフ・スミスでした。

最愛の妻とこの世においても永遠の世においても固く結ばれること、またお互いを結びつける純粋な思いやりとやさしさは、神聖な永遠の愛の泉から生まれると教えてくれたのも彼でした。そして、これらのやさしい気持ちはさらに強めることができ、永遠にわたってその中で進歩、成長できることを学んだのも、彼を通してでした。……

[自分の家族の] 族長、また王として永遠の神権を身にまとった、神の息子の真実の威厳と使命を教えてくれたのも彼でした。女性に与えられる最高の位は、女王、女祭司として夫のそばに立つことである、ということ学んだのもやはり彼を通してでした。……

昔から私には愛情がありましたが、その訳は知りませんでした。しかしいまや私は、純粋な心、この卑俗な世界のはかない事物から私の心を高め、大洋のように広くしてくれる、高められた強い気持ちで愛するようになりました。そして、神が事実私の天父であり、イエスが私の兄であること、愛する妻が永遠に変わらぬ伴侶であり、慰め手として与えられた思いやり深い天の使いであり、永遠の栄えある冠であることを感じるようになりました。今の私は、ひと言で言うと、みたまと理解をもって愛せるようになったのです。」(「パーレー・P・プラット自叙伝」 pp.297-298)

伴侶とともに主の宮居へ行き、墓を越えて家族をつなぐ結び固めの儀式を受ける人は、これらの祝福にあずかる資格を得ることができます。これらの祝福は、ほかの



PHOTOGRAPH BY PEGGY JELLINGHAUSEN

伴侶とともに主の宮へ行き、家族を永遠にひとつになく結び固めの儀式を受ける人は、永遠の愛という祝福にあずかる資格を得ることができます。

方法では受けられません。「^{なんじ}汝らわが^{おきて}律法を守るにあらざればこの光栄に達するを得ず」(教義と聖約132:21)と主が定めておいでになるからです。この栄光とは永遠に子孫が増えていくことです。(教義と聖約132:19参照)

しかし、家族をひとつに結ぶことについて、私たちにほもうひとつ別の責任があります。これもまた、この神権時代の予言者を通して啓示されたものです。イエスは使徒たちに次のように言われました。「わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。」(ヨハネ14:12)

この末日において私たちが主から託された業のひとつに、みずから救いの儀式を受けた人は、福音を受け入れる機会なくこの世を去った先祖のためにその儀式と結び固めの働きをなすという責任があります。私たちは、霊界で闇の中に閉じ込められているかもしれない死者が、福音の光を受けて私たちと同じ条件で裁きを受けられるように、彼らのために救いの扉を開く特権を与えられているのです。そうです、福音の救いの儀式にあずかる機

会を人々に与えるという、「わたしのしているわざをする」のです。どれほど多くの私たちの血族が、この結び固めの儀式をいまだに待ち続けていることでしょうか。

次のように自問してみてください。「自分は幕のこちら側にいる者としてできることを、すべて果たしているだろうか。自分自身の先祖の救い主となっているだろうか。」

私たちは、先祖なしには完全になれません。昇栄は家族のきずなを基とした祝福なのです。

主は生きておいでになります。ですから私たちが生きることができます。主が生きておられるがゆえに、私たちが幕のこちら側で享受している愛や家族の交わりは永続し得るのです。主が生きておられるがゆえに、私たちはすべての者のうち最も聖なるお方、すなわち天父が持つておいでになる栄光にあずかれるのです。□

話し合いのポイント

1. 死後の世界は実在する。イエス・キリストの復活についての証は数多くある。

2. 主は私たちに、福音を受け入れる機会なくこの世を去った先祖のために儀式を行なうように命じておられる。

中国からの宝物

ジェニー・シェイラー

その宝物について最初に知ったのは、1992年10月のオーストラリアの美しい朝でした。教会員でない夫が、目を覚ますなり、昨夜見た不思議な夢について話してくれたのです。夢の中で私の家系のだれかから、私を中国に行かせ、家族の系図記録を調べさせてほしいと頼まれたということでした。

私は夫に何と答えたのか尋ねました。彼は、私を中国に行かせないことで責任を取らされるのはいやだ、と答えたと言いました。

私は驚きました。実は、娘の結婚式があるので数カ月後に香港に行く予定をすでに立ててあったのです。結婚式の後で中国本土に渡って、家族の記録が保存されている先祖の村を訪ねるのも可能だという考えが浮かびました。こうして夫の夢のおかげで、私は中国本土まで行くことにしたのでした。

期待に胸を躍らせていましたが、ひとりで中国に行くことに不安を感じていました。しかし天父は、この不安も晴らしてくださいました。一緒に香港に行くことになっていた義理の息子が、中国まで同伴すると言ってくれたのです。

1992年の12月16日、私たちは香港から中国の広州^{コワンチオン}行きの列車に乗りました。広州から別の列車に乗り替え、11時間かけて茂名^{マオミン}に着きました。ここからサイドカー付きのオートバイで3時間ほどの所にその村はありました。私たちが着いた時、おじはびっくりして出迎えてくれました。おじは私の訪問を知らせる手紙を前日に受け取ったばかりだったのです。私はその人がおじだとすぐわかりました。私の父とそっくりだったからです。話が落ち着いた

ところで、私は家族の記録について尋ねました。

おじは700年近く前までさかのぼる家族の歴史記録を7冊見せてくれました。これらの記録には生没年月日だけでなく、それぞれの先祖について簡単な歴史も記入されていました。私は心からの喜びに包まれました。

ただし、大きな問題がありました。この村は人里離れた小さな村で水道も通っていないのです。ましてやコピー機などあるはずがありません。手書きで記録を写すとなると何カ月もかかるでしょう。私ができることを伝えると、

おじは笑顔で、「1部ずつ予備があるからそれを持って行きなさい」と言ってくれました。義理の息子と私は驚いて顔を見合わせました。おじの家族はあまり裕福ではありません。予備の記録を作るにはかなりの費用がかかったことでしょう。

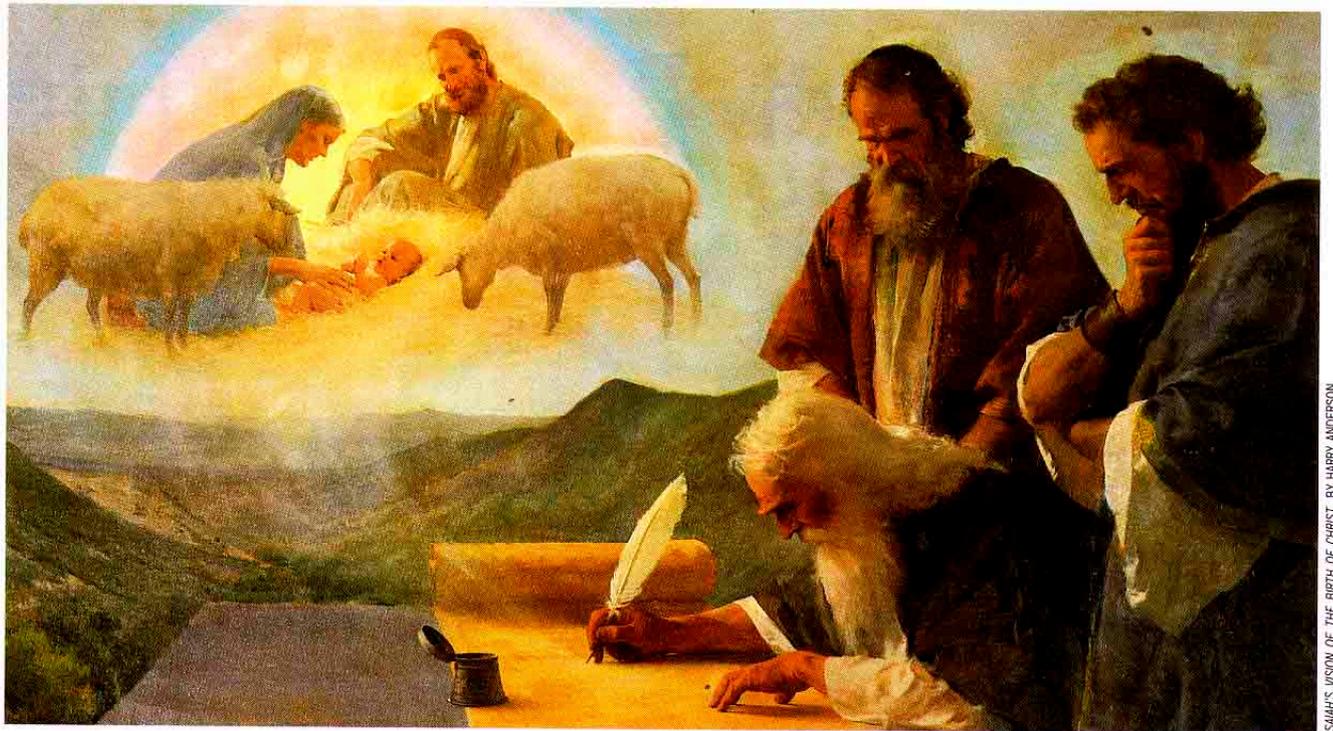
何年もの間、私が家族歴史に関する作業をしないのは家族の記録がないからだ、と自分に言い訳してきました。でももう何も口実にはできません。この経験を通じて、霊界で多くの先祖が福音を受け入れていることを確信しま



した。だからこそ、こうして先祖の記録を授かる道が私の前に開かれたのでしょう。この記録はまさにかげがえのない宝物です。□

何年もの間、私が家族歴史に関する作業をしないのは家族の記録がないからだ、と自分に言い訳してきた。しかしひとつの夢がきっかけで、中国にいる会ったこともないおじを訪ねたことから、すべてが変わった。





ISAIAH'S VISION OF THE BIRTH OF CHRIST, BY HARRY ANDERSON

キリストを証した^{あかし} 予言者たち

D・ケリー・オグデン, R・バル・ジョンソン

➤ れからお話しする状況はまれなものではありません。多くの主の民は神を忘れ、自分の罪を誇っている者さえいます。主はそれに対して、予言者を送られました。ヒラマンの息子であるニーファイは、勇敢に神のみ言葉を宣べ、罪悪の状態にあったニーファイ人に向かって、彼らの上立つ者たちは秘密結社に属しており、富と権力を得るためには手段を選ばない者たちであることをはっきりと告げました。(ヒラマン書第7章参照)

それに対し、邪悪な者たちは人々をそそのかしてニーファイを黙らせよう

としましたが、彼には予言のみたまが宿っており、彼を信じる人もいたのでニーファイは難を逃れることができました。

彼の伝道の真髄はただひとつ、神はいつの時も主の予言者を通してみ言葉を送られ、民が幸福と平安を得るために必要な知識となすべきことを教えてこられたという事実です。その最も重要なメッセージは、神の御子が人類を贖うために地上に来られ、彼を待ち望む者は皆生きるであろうということでした。

そしてニーファイは、救い主の降誕

を詳細に予言した数々の予言者の名を挙げて、「多くの予言者たち」が何世紀にもわたってキリストのことを証してきたことを示しました。(ヒラマン 8：11-22参照)

このような方法を取ったのは、ニーファイだけではありません。それより1世紀余り前、アビナダイはノア王に向かってこう告げています。「モーセはメシヤが降臨したもうことを、また神がその民を贖いたもうことを……予言したではないか。世界が始まってからこのかたの予言者たちも皆そうしたではないか。この予言者たちは皆多少



なりともこれらの事について話したではないか。」(モーサヤ13:33。アルマ34:2も参照)

もしニーファイの民が、キリストが間もなく肉体を受けて降誕され、恵みと導きを施されることを知らなかったとすれば、神のみ言葉にじゅうぶん精通していなかったこととなります。精通していればニーファイの民は、地上でメシヤがどんな名で呼ばれるか、どこで、そしていつ誕生されるか、母の名、その教えと恵み、どのような苦しみを受け、どのような最後を遂げるかについて、そしてその復活によって全人類の死の縄目が断ち切られることについて知っていたはずなのです。すべては、後にモルモン経の一部となる数々の啓示ではっきりと示されていたからです。さらに主の贖罪しよんざいが自分たちと神との和解をもたらしてくれるも

のであり、この偉大な恩恵を享受するためには何をしなければならぬかという一層重要な事柄も理解していたはずです。

それらは、エルサレムの人々、少なくとも、主がその地で恵みと導きを施されていた時代の人々に対しては、ニーファイの民に示されていたほど詳細に、また明白には示されていなかったようです。しかしながら、予言はじゅうぶん残されており、来るべきメシヤを探求する手がかりはその中から数多く得られたはずです。イエス・キリストは何の前触れもなくこの世に來られたわけではありません。アダムからバプテスマのヨハネに至るまで、またリーハイからレーマン人の予言者サムエルに至るまで、すべての予言者たちはキリストの降誕を証し、贖罪について教えたのでした。

古代の多くの人々はこれらの真実を喜んで受け入れました。しかし、まったくの作り話だとして拒絶する者もいました。もし私たちがヒラマンの息子であるニーファイから教えを聞いた人人の中にいたとしたら、予言をじゅうぶん理解して救い主の降誕を喜んで待ち望んだでしょうか。それとも、思い違いをしてみずいてしまったでしょうか。

次に挙げるのは、恵みと導きを施す救い主のみ業に関する数々の予言をまとめたものです。

D・ケリー・オグデン——ブリガム・ヤング大学の古代聖典学准教授
R・バル・ジョンソン——教会国際機関誌の編集主幹補佐



恵みと導きを施すキリストのみ業に関する予言

予言

話者／記録者

参照聖句

誕生

- 創造主であるエホバが人類を贖うために肉体を受けて生まれる。
ジェレドの兄弟、イザヤ、ニーファイ、ゼノス、ヤコブ、ベンジャミン王、アビナダイ、アンモン、ラモーナイ、バプテスマのヨハネ
イテル 3 : 6-16 ; イザヤ 44 : 24 ; I ニーファイ 19 : 7-12 ; II ニーファイ 9 : 5 ; モーサヤ 3 : 5 ; 7 : 27 ; 13 : 34 ; 15 : 1 ; アルマ 19 : 13 ; 教義と聖約 93 : 6-11
- イスラエルの神となり、肉における天の御父の独り子となる。
アダム、エノク、モーセ、イザヤ、ニーファイ、ヤコブ、アビナダイ、アルマ、バプテスマのヨハネ
モーセ 1 : 6, 33 ; 2 : 1, 26 ; 6 : 52 ; イザヤ 9 : 6-7 ; I ニーファイ 11 : 20-21 ; 22 : 12 ; II ニーファイ 25 : 12 ; モルモン経ヤコブ 4 : 5 ; モーサヤ 15 : 2-5 ; アルマ 5 : 48 ; 教義と聖約 93 : 11-14
- 母となる女性は処女であり、ダビデ王の末裔。ナザレ人であってその名はマリヤと呼ばれる。
ヤコブ、モーセ、イザヤ、エレミヤ、ニーファイ、ベンジャミン王、アルマ
創世 49 : 24 ; イザヤ 7 : 14 ; 11 : 1 ; エレミヤ 23 : 5-6 ; 33 : 15-16 ; I ニーファイ 11 : 13-21 ; モーサヤ 3 : 8 ; アルマ 7 : 10
- 誕生のしるしが現われる。
レーマン人サムエル
ヒラマン 14 : 3-7

名前

- メシヤは「救」と呼ばれる。(ヘブライ語では「エシュア」、英語では「ジーザス」)
モーセ、イザヤ
出エジプト 15 : 2 ; イザヤ 12 : 2-6
- イエス・キリストという名前で呼ばれる。
アダム、エノク、ノア、ジェレドの兄弟、モーセ、ニーファイ、ヤコブ、ベンジャミン王、アビナダイ、アルマ
モーセ 6 : 52, 57 ; 8 : 23-24 ; イテル 3 : 14-16 ; II ニーファイ 25 : 19 ; モルモン経ヤコブ 4 : 4-6 ; モーサヤ 3 : 8, 17 ; 15 : 21 ; アルマ 5 : 48

誕生の時期

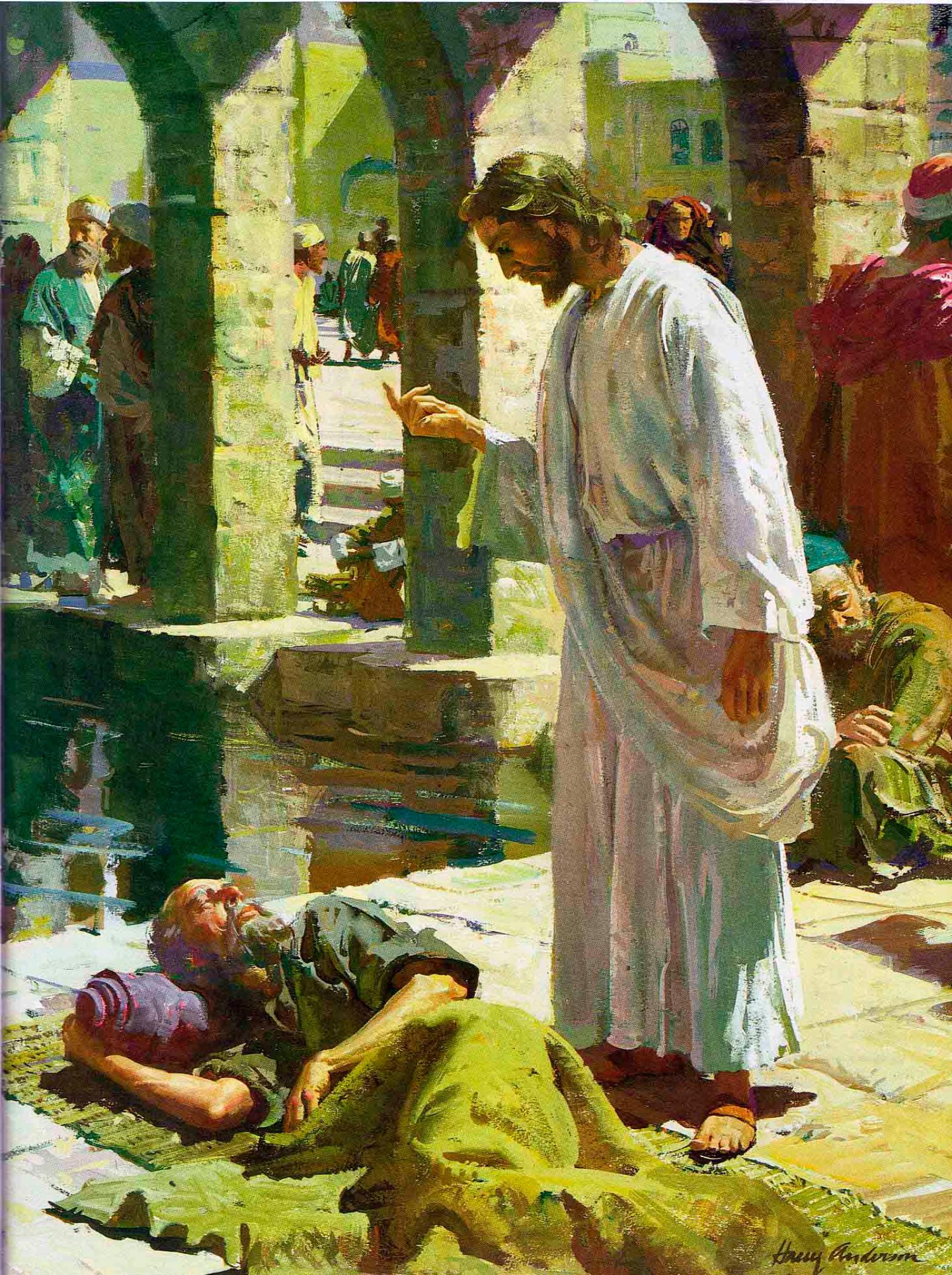
- イエスは時の絶頂に生まれる。リーハイがエルサレムを去って600年後、またサムエルの予言から5年後に生まれる。
アダム、エノク、モーセ、リーハイ、ニーファイ、レーマン人サムエル
モーセ 5 : 57 ; 6 : 57, 62 ; 7 : 45-46 ; I ニーファイ 10 : 4 ; 19 : 8 ; II ニーファイ 25 : 19 ; ヒラマン 14 : 2

誕生の場所

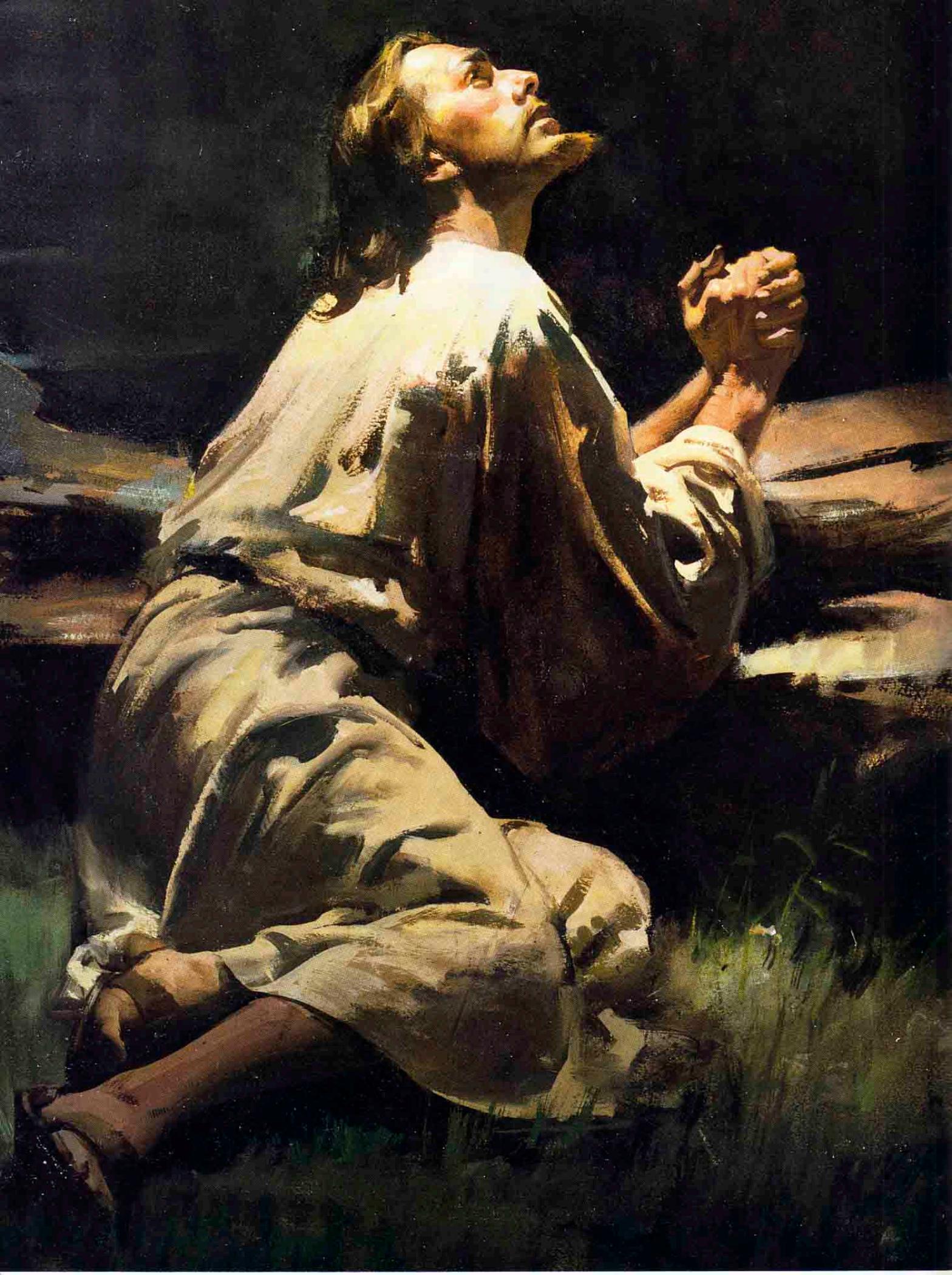
- キリストはエルサレムに近いベツレヘムで生まれる。
ミカ、ヤコブ、アルマ
ミカ 5 : 2 ; II ニーファイ 10 : 3 ; アルマ 7 : 10

贖罪——恵みと導きを施す主のみ業の内容

■主に先立って遣わされた予言者が、メシヤが使命を果たすための道を備える	イザヤ、リーハイ、ニーファイ	イザヤ40：3；I ニーファイ10：7—8
■神はキリストをエジプトから呼び出す。	ホセア	ホセア11：1
■幼少時代をナザレで過ごす。	ニーファイ	I ニーファイ11：13, 20
■ベタバラの近くで、主に先立って遣わされた予言者からバプテスマを受ける。聖霊がはどのように降る。	リーハイ、ニーファイ	I ニーファイ10：9—10；11：27；II ニーファイ31：4—8
■誘惑、飢え、渴きを受けて苦しむ。	イザヤ、ベンジャミン王、アビナダイ、アルマ	イザヤ53：3；モーサヤ3：7；15：5；アルマ7：11
■旧世界においては十二使徒を召し、新世界においては十二人の弟子を召す。	ニーファイ	I ニーファイ11：29, 34；12：6—10
■喜びのおとずれを教える。	イザヤ	イザヤ61：1
■羊飼いとて、自分に従う人々を養う。	イザヤ、エゼキエル	イザヤ40：10—11；エゼキエル34：11—31
■メルキゼデクの位にしたがって、とこしえに祭司となる。	モーセ、ダビデ、アルマ	ジョセフ・スミス訳創世14：25—31；詩篇110：1—4；アルマ13：7—9
■力をもって教えを施し、奇跡を行なう。	イザヤ、ニーファイ、ヤコブ、ベンジャミン王、アビナダイ、アルマ	イザヤ59：16—19；I ニーファイ11：28, 31；II ニーファイ10：4；モーサヤ3：5—6；15：6；アルマ5：50
■シオン(エルサレム)にやって来る。	イザヤ	イザヤ59：20
■王として若いろばに乗ってやって来る。	ゼカリヤ	ゼカリヤ9：9
■主を受け入れようとしない民にとってつまずきの石となる。	ダビデ、イザヤ、ニーファイ、ヤコブ	詩篇118：21—22；イザヤ8：13—14；53：3；I ニーファイ11：28；19：13；II ニーファイ10：3—5；25：12；モルモン経ヤコブ4：15
■銀貨30枚のために友に裏切られる。	ダビデ、ゼカリヤ	詩篇41：9；ゼカリヤ11：12—13；13：6
■恵みと導きを施す主のみ業を、多くのものが予示している。	アダム、エノク、ヤコブ	モーセ6：62—63；II ニーファイ11：4



Harry Anderson



贖罪——主の受ける苦しみ

- | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|--|
| ■キリストはみずから苦しみに身を任せる。 | イザヤ、ゼノス、ニーファイ、アビナダイ | イザヤ50：6；53：7；Iニーファイ19：9—12；モーサヤ15：5—6 |
| ■何の罪も犯さない。 | イザヤ | イザヤ53：9 |
| ■我々の罪を贖い、病から救うために苦しみを受け、あらゆる毛穴から血を流す。 | イザヤ、ヤコブ、ベンジャミン王、アルマ、アミュレク、アロン | イザヤ53：3—12；IIニーファイ9：21—22；モーサヤ3：7；アルマ7：11—13；21：9；34：8—9 |
| | イザヤ、ニーファイ | イザヤ53：8；Iニーファイ11：32 |
| ■キリストの苦しみの予告。 | アブラハム、イサク、モーセ、ヤコブ | 創世22：1—14；レビ16：7—10；モルモン経ヤコブ4：5 |

贖罪——十字架上の死

- | | | |
|--------------------------|---|---|
| ■キリストは自分から命を捨てる。 | イザヤ、リーハイ、ニーファイ、アビナダイ | イザヤ53：7，9，12；Iニーファイ19：9—10；IIニーファイ2：6—7；モーサヤ15：6—7 |
| ■人々のために、人々によって十字架につけられる。 | エノク、ゼノク、ニーアム、リーハイ、ニーファイ、ヤコブ | モーセ7：47，55；Iニーファイ10：11；11：32—33；19：10；IIニーファイ6：9；10：3—5；25：13 |
| ■手と足をくぎで打たれる。 | ダビデ、イザヤ、ゼカリヤ | 詩篇22：16；イザヤ22：23—25；ゼカリヤ12：10；13：6 |
| ■あざけりを受け、苦痛と渴きを経験する。 | ダビデ、イザヤ、ベンジャミン王 | 詩篇22：7—8；イザヤ50：6；モーサヤ3：7 |
| ■酔を差し出される。 | ダビデ | 詩篇69：20—21 |
| ■十字架上で、ある言葉を話す。 | ダビデ | 詩篇22：1；31：5 |
| ■その骨は砕かれずに残る。 | ダビデ | 詩篇34：19—20 |
| ■衣を分けるのにくじが引かれる。 | ダビデ | 詩篇22：18 |
| ■墓に葬られる。 | ゼノス、ニーファイ | Iニーファイ19：10；IIニーファイ25：13 |
| ■主の死のしるしが現われる。 | ゼノス、ニーファイ、レーマン人サムエル | Iニーファイ12：4—6；19：10—13；ヒラマン14：20—28 |
| ■主の贖いと死の予告。 | アダム、イヴ、エノク、アブラハム、イサク、モーセ、エゼキエル、ニーファイ、ヤコブ、アルマ、ニーファイ(ヒラマンの息子) | モーセ5：4—7；6：63—68；創世22：1—14；出エジプト12；16：12—35；17：1—7；29；レビ1—17；21—23；民数19；21：5—9；エゼキエル43：18—27；45：18—25；Iニーファイ17：41；モルモン経ヤコブ4：4—5；アルマ33：18—23；ヒラマン8：13—15 |

贖罪——復活

- イエスは3日後によみがえり、証人たちに自分を示す。 リーハイ、ニーファイ、ベンジャミン王 I ニーファイ10：11；II ニーファイ25：13—14；26：1；モーサヤ3：10
- 彼が死を克服したことにより、ほかの人々も復活する。 エノク、モーセ、サムエル、ヨブ、ダビデ、イザヤ、エゼキエル、ホセア、リーハイ、ヤコブ、アビナダイ、アルマ、アミュレク、レーマン人サムエル モーセ7：55—57，62；サムエル上2：6；ヨブ19：25—27；詩篇16：9—10；イザヤ25：8；26：19；エゼキエル37：12—13；ホセア13：14；II ニーファイ2：8；9：4—13；モーサヤ13：33—35；15：20—24；16：7—11；アルマ11：42—45；33：22；40：2—23；ヒラマン14：25
- 主の復活の予示。 ヨナ ヨナ1：17；2：1—10；死の予示の聖句(前ページ)も参照

贖罪——その理由と方法

- 贖罪の効力は永遠に及ぶ。 ニーファイ、ヤコブ、アミュレク II ニーファイ9：7；25：16；アルマ34：8—14
- キリストの犠牲により正義と^{あわ}憐れみの律法が満たされる。 ヤコブ、アビナダイ、アルマ、アミュレク II ニーファイ9：25—26；モーサヤ15：8—9，26—27；アルマ34：14—18；42：13—30
- 主の贖罪により、全人類はアダムの墮落によってもたらされた肉体の死から贖われる。 リーハイ、ヤコブ、アビナダイ、アルマ、アミュレク、アロン II ニーファイ2：8—9；9：4—15；モーサヤ15：7—9，20—27；アルマ11：39—45；12：21—25；22：13—14；40：23；41：2—15
- 主の贖罪により、キリストへの信仰を持ち、悔い改め、バプテスマを受け、聖霊の賜^{たまもの}を授かり、終わりまで堪え忍ぶ人は、霊の死から贖われて喜びと永遠の生命を受ける。 アダム、イヴ、エノク、ノア、ジェレドの兄弟、イザヤ、リーハイ、ニーファイ、ヤコブ、ベンジャミン王、アビナダイ、アルマ、アミュレク、アロン、バプテスマのヨハネ モーセ5：8—11；6：51—68；8：23—24；マタイ3：11；イテラ3：14；イザヤ1：16—18；I ニーファイ10：4—6；II ニーファイ2：3—29；9：10—42；31：10—21；モーサヤ3：11—21；4：5—30；5：6—15；15：10—19；アルマ5：6—62；11：36—43；12：12—37；22：14；34：2—41；42：2—28

霊界への訪れ

- 救い主の贖罪は霊界にまで及ぶ。 エノク、イザヤ、ゼカリヤ モーセ7：57；イザヤ42：6—7；61：1；ゼカリヤ9：11

ヨセフの子孫への訪れ

- キリストはヨセフの子孫を訪れる。 ヨセフ、ニーファイ ジョセフ・スミス訳創世50：25；I ニーファイ12：1，6；II ニーファイ26：1

昇天

- イエスは御父のみもとに昇る。 エノク モーセ7：59□



ブルックスの少年

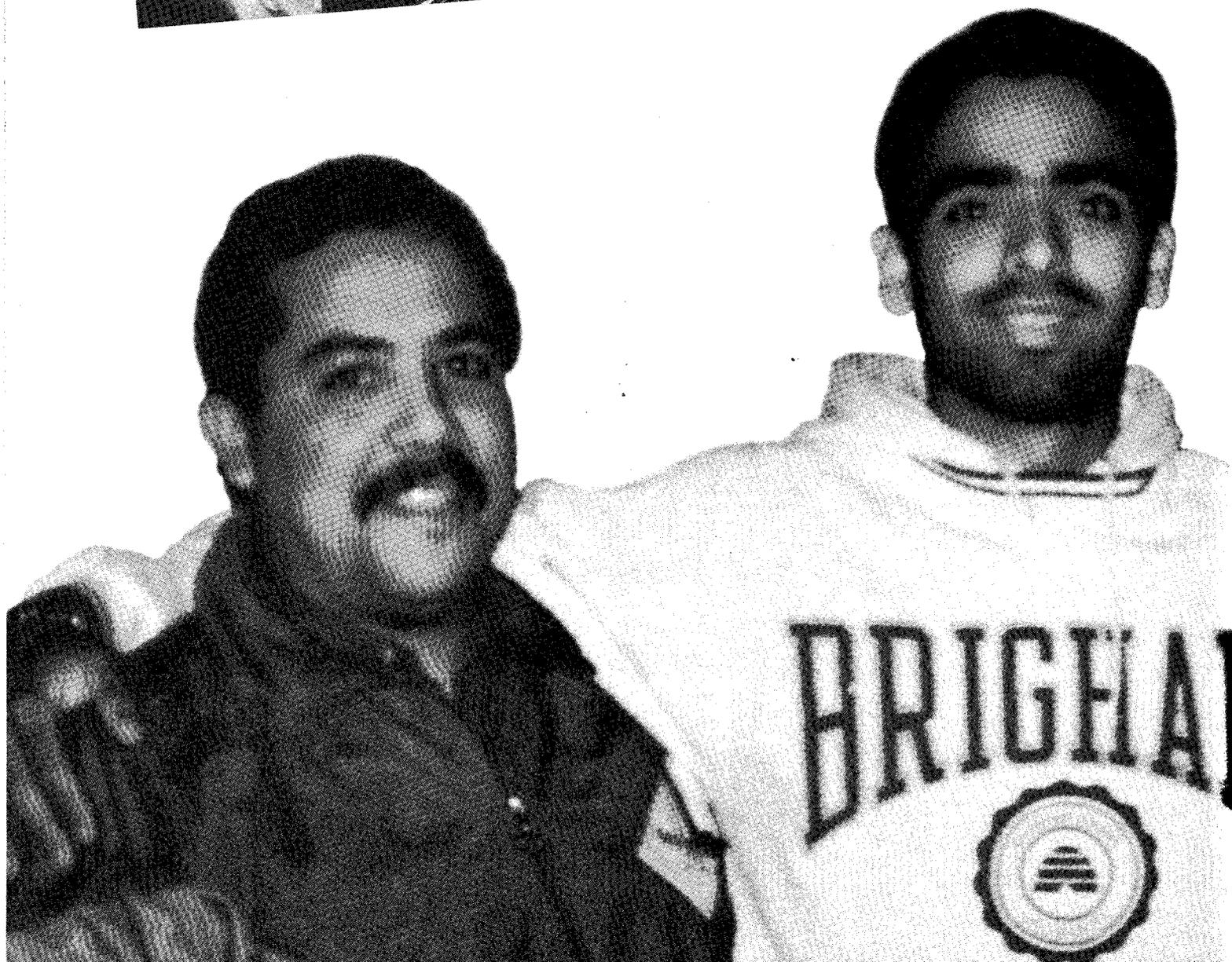
エライザ・タナー

PHOTOGRAPHY BY JED CLARK AND THE ABALLAY FAMILY



も しあなたが高校のカウンセリング担当の先生から、思いもかけないときに突然部屋に呼ばれたら、少し緊張するのではないのでしょうか。

あなたがニューヨーク市にあるカトリック神学校の最上級生、リチャード・アパリーの立場ならば、とりわけ緊張することでしょう。リチャードはテレビでモルモン教会についての広報用放送を見て宣教師と連絡を取り、バプテスマを受けました。しかし、自分



がバプテスマを受けたことはまだ学校のだれにも話していませんでした。その生徒たちは皆カトリックの司祭になる準備をしているのですから。

「勉強の方はどうですか。」10月下旬のこの運命の日、先生が丁寧な口調で話し始めました。

「好調です」とリチャードは慎重に答えました。

すると、先生は早速、本題に入って質問してきました。「君はよその教会に加入しているんだって。」

「はい。」

「どこの教会だね。」

「末日聖徒イエス・キリスト教会です。」

「またどうして。」

「その教会で、救い主についてさらによく知ようになったからです。教会からこれまで以上に多くのことを学んでいるのです。まさしく神の教会です。」

先生の説教が始まり、ほかの教会の

会員であるからには、除籍処分になることも覚悟してもらわねばと警告されました。リチャードの心に、モルモン教会とはすぐに縁を切りますとさえ言えばその場は丸く治まるのだろうけど、という思いが浮かびました。そうすれば無事に学校を卒業することもできます。

「でも私にはできませんでした」とリチャードは後述しています。「一度真理を知ったなら、否定なんてできませんよ。」

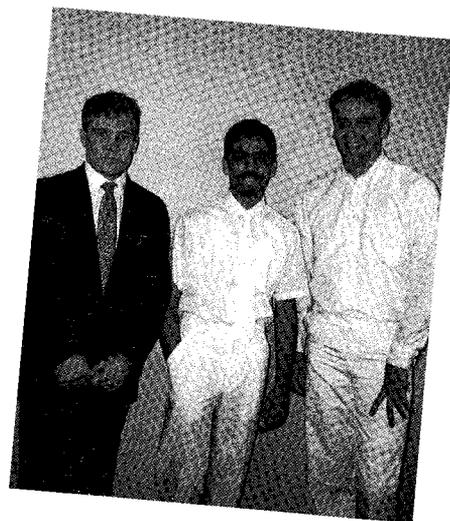
翌日にはリチャードの処分が正式に決定し、退学しなければならなくなりました。

それからの1週間というものはひどく苦しみました、とりチャードは語ります。しかし、熱心な祈りがかなえられ、リチャードの家族は、彼が編入できる別の優れた学校を見つけることができました。

「この経験から、主が決して私をお見捨てにならないことを学びました」

とりチャードは言います。

さらにリチャードは、この経験を通して、以前よりも多くの人々に福音について話す機会を得ました。リチャードが前の学校を退学してまで新たな信念を買った理由を、級友たちが知りたがったからです。



左上——ニューヨーク、ブロンクスワード部で芝居をした仲間とともに。

左——リチャードと両親。プリガム・ヤング大学在学時。

上——リチャードのバプテスマ会。





「初めて執事に召されて以来、大きな変化に気づきました。主がともにいてくださるのを強く感じたのです。そして自分に自信を持つようになり、学校でほかの生徒たちが悪い行ないをしていてもひるまず通学し、誘惑に対して拒否できるようになりました。この自信のおかげで正しく歩むことができるのです。私はいつも自分にこう言い聞かせています。『神権を尊ぼう』と。」

福音はまたほかの方法でもリチャードを助けてくれています。ひとつの例として、教会員になって以来、話下手を克服できるようになりました。聖霊の賜を受ける前までは、「人前で、ひと言も話せませんでした」とリチャードは言います。しかし按手礼を受けてからというもの、聖餐を祝福し、教会で話をし、またふたつの芝居で役まで演じるようになりました。「イテル書第12章27節にあるように、私の弱さは強さ変わったのです。」またリチャードはそれまで多くのパーティーに参加していました。しかしあるパーティーを境に参加しなくなりました。こう話しています。「さまざまなことを目

リチャードが直面していたチャレンジは、学校から除籍になることだけではありませんでした。リチャードはニューヨークシティーの行政区であるブロンクスに育ちましたが、ブロンクスは暮らすには楽な場所ではありません。

「もし福音がなかったら、今ごろはおそらくとんでもない方向に進んでいたでしょうね。スラム化した都心部で生活するのは大変なことなんです。そんな中であって、私にとって最大の祝福は神権を授かっていたことです」とリチャードは言います。

にしましたが、よい気持ちを感じませんでした。なんとなく場違いな所にいる自分に気づいたのです。」

パーティーに近づかなくなった彼は、奉仕活動、学業、聖典学習、よい音楽を聞くことにもっと没頭しようと決心しました。またテレビもあまり見ないことにしました。

「確かにきつかったですよ。世の中で起きている事柄についていきかかったですすし、世捨て人にはなりたくなかったですからね。でも、伝道に行くつもりなら、神殿で結婚するつもりなら、また教会の召しを受ける気があるなら、ふさわしくならなければと感じたのです。」

リチャードのたいていの友人の目には、彼の選択することは不思議に映るようです。また友人たちは、リチャードがパラグアイ・アスンシオン伝道部で専任宣教師として働く召しを受ける決意をしたことも不思議でなりません。リチャード自身、友人たちがそう思うのも無理はないと感じています。

「キリストの弟子、つまり教会員としての生活様式は、世の中の人々の目には一見奇妙に映るものです。神は世

の人々と同じ方法で働いたり考えたりはなさいませんし、また神は私たちが世の人々と同じ方法で行動し考えることも願っておられません。主は世の中の人々には奇妙と思える方法で働いていらっしゃるので、私たちは不思議で特異な民として考えられるのでしょうか。でも私は不思議な存在であることを誇りに思っています。それに実際は、何も変なところなどないのですから。」

「今の私は世の人たちとは異なった生活をしているので、正直に言うと、彼らの生き方の方が変だと感じています。私は世の人々の生き方をよりよいもの、つまりキリストのみもとに導かれるような生き方に変えたいと願っています。」

使徒パウロは、すべての人々が「もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者」(エペソ2:19)となるように招きました。リチャード・アバリーはこの世の異国人に対して、パウロと同じように招いています。そうすることで、ブロンクスの少年は立派な大人へと成長してきたのです。

□



左——ユタ州プロボの宣教師訓練センターにて。リチャードはここでパラグアイでの伝道に備えた。

上——宣教師訓練センターの同僚、リカルド・ベンハミン・モラーレスと。

下——プロボの宣教師訓練センターの同期生たち。





ILLUSTRATED BY ROGER MOTZKUS

教えるひととき

メアリー・モリル

息子のアンドリューが4歳の時でした。ある日、私は昼食の準備をする傍ら、アンドリューに「台所のいすに座って、お話ししましょうか」と誘ってみました。アンドリューが腰かけると、ジョセフ・スミスの最初の示現について話して聞かせました。彼は真剣に耳を傾けていました。翌日、私が昼食の支度を始めると、今度は自分からいすに腰かけてきてこう言いました。「ママ、またジョセフ・スミスのお話をして。」そこで今度は、昨日よりもっと詳しく話してやりました。まるで自分の証を息子に伝えているような気持ちになったものです。その次の日も同じことがあり、土曜日まで続きました。

翌日の日曜日、教会の集会が終わった後で、アンドリューのクラスの教師からこう尋ねられました。「アンドリューと一緒に何かされたのですか。」私は「どういふことでしょうか。クラスできょうはお行儀が悪かったのですか」と問い返しました。

すると突然、彼女のほおを涙が伝わりました。アンドリューがクラスで、小さな子供にしては考えられないほど感情を込めて、しかもとても詳しく最初の示現の話をしてくれたとのことでした。その証にとっても感動した彼女は、アンドリューに次の日曜日の初等協会でもジョセ

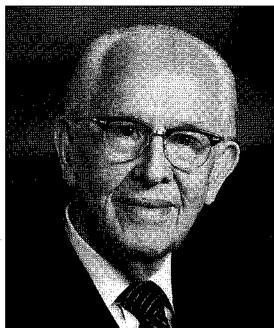
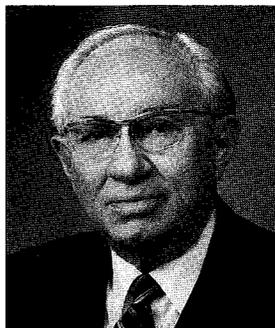
フ・スミスの話をするように手配していました。「アンドリューがお話を準備する時、何も手伝わないでくださいね。私は彼がきょうクラスでしたのと同じように話してほしいのです」と彼女は言いました。

アンドリューが10代の時、私は彼にジョセフ・スミスが本当の予言者だということを知っているか、と聞いてみました。彼は不思議そうな顔をしながら私を見て言いました。「母さん、わかっているでしょう、ぼくがそれを知っているって。」いつその証を得たのかと聞くと、彼は肩をすくめて、考え深そうに答えました。「わからないよ。でもずっと前から知ってたと思うよ。」

振り返ってみると、彼は子供のころ、あの台所のいすに腰かけていた時に証を得たのだと思います。私が自分自身の証を心を熱くして語った、あの短く、しかし貴重な時間に、彼もまた温かいみたまを感じていたに違いないのです。

ひょっとすると子供たちを教える最良の機会は、このようなちょっとしたひとときに訪れるのかもしれませんが。私たちはそういう時間が及ぼす効果をじゅうぶんに計り知ることはできませんが、その積み重ねによって、愛する子供たちに力強い影響を及ぼすことができるのです。□

大管長会が国際家族年を支持



19 94年は全世界で国際家族年と指定されているが、大管長会はこの支持する旨を発表した。

大管長会はその中で次のように述べている。

「1994年が国際家族年に指定されたことに私たちも関心を寄せ、家族の大切さについて認識を深めています。国の力は、そこに住む家族の強さにあります。父親、母親、子供として家族が互いに関心を寄せ合い、交わる時に、最も大きな幸福を味わい、深い喜びがわきあがるように天父は意図されています。

堅固な家庭生活は、一人一人が神の子供として天与の生得権を持ち、無限の可能性を秘めているという自覚の上に築かれます。さらに、互いに愛し尊敬し合い、主の道に従って子供たちを教え、養育する両親がいるときに、堅固な家庭生活は築かれます。彼らは正直、高潔、勤勉、奉仕などの昔ながらの価値観を子供たちに教えています。

すべての市民が、義を基とする、思いやりに満ちた家族に感謝し、そのような家族を築くために努力できるよう、私たちは願っています。」□

「国際家族年」とは



1994 国際家族年

ることなどに鑑み、家族問題は、特別かつ国際的な注目を要するとの認識が深まった。

目的

国際家族年は、家族の重要性を強調し家族問題に対する政府、国民の関心を高めることにより、家族の役割、構造および機能に対する理解、家族の関心事、現状および問題に対する認識を深め、もって家族の福利を支援、促進するための施策を助長することを目的とする。そのための諸計画を国内、地域および国際レベルにおいて政府、非政府組織、地域および国際機関が協力して実施する。

共通スローガン

共通スローガンは「Building the Smallest democracy at the heart of society」。家族から始まる小さなデモクラシー

国際家族年シンボルマーク

国際家族年(略称 IYF)を象徴する公的エンブレム(シンボルマーク)は、家族が社会の中心にあってハートであることを表わしている。

ハートは屋根で保護され、大きいハートはさらに小さいハートでつながり、愛情で結ばれる家族員の家庭生活を映したものである。

ハートから右に向けての開きは外との連続状態と未来への不確実性関係を、屋根のかすれた筆使いは家族の複雑性を象徴している。

(内閣内政審議室発行の国際家族年についての資料より)

「聖徒の道」編集室より

「聖徒の道」編集室では「家族」にまつわる投稿を募集しています。皆さんの家庭で行なっていること、家族の証、各ユニットでの行事の記事を、写真を同封のうえお送りください。あて先は、「聖徒の道」ローカルページの最終ページをごらんください。□

国際家族年設定の背景

家族は社会の基礎的単位であるが、近年種々の問題によって家族構造が変化するとともに、その機能も低下し、このため、その構成員、特に幼児、高齢者、障害者などに対し必要な援助を行なうことができなくなっている。また母子家庭などの家族の概念を越えて、家族形態の多様化も顕著になっている。他方、家族のきずなを強化することは、家庭の不和、犯罪、青少年非行・麻薬、アルコール中毒の防止などにも寄与す

証を強め、守っていくには

自分の証を強め、守っていくにはいくつかのステップがあります。次のようなことが挙げられます。

●**証を得たいと望み、証が得られるという信仰を持つ。**イテル書第12章6節でモロナイはこのように述べています。「あなたたちは自分がまだ見ていないからと言って疑ってはならない。信仰の度を試してからでないと証が得られないからである。」

●**聖典を調べる。**私たちの場合、教会本部から遠く離れて暮らしていますが、早朝セミナーが聖書やモルモン経を学ぶよい助けとなり、1日をよい気持ちで始めることができます。

●**戒めを守る。**信仰、神から受け継いだ特質、個人の価値、知識、選択と責任、良い行ない、誠実など、若い女性の信条は日々の生活の中でよい指針になります。「成長する私」のプログラムも証を強めるのに大きな助けになりました。

●**証を得、証を強められるように祈る。**マタイによる福音書第7章7節から8節にこうあります。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである。」

●**証を分かち合う。**マタイによる福音書第5章15節にはこうあります。「また、あかりをつけて、それを柵の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照らせるのである。」姉妹宣教師と一緒に働くことも福音を広めるのに役立ち、証を強めるのに役立っています。

●**奉仕する。**自分を忘れて奉仕するときに、福音が実際にどのような働きをするか目にするすることができます。これ

は証を培う最適の方法です。

私たちも、教義と聖約第76章22節でジョセフ・スミスとシドニー・リグドンが語ったように証することができます。「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。」日々、福音に従って生活し、雄々しく証することで、自然に証を強めることができます。

サウスダコタ州スーフォールズステークス部スーシティーワード部

ローレルクラスの若い女性たち

望みと行ない

祈りと聖典の勉強は主との関係を維持するために最も大切であると、いつも教会で教えられています。でもこれらがどれほど役立つか、実際には理解できていない場合が多いようです。私が証を得た時のことを振り返ると、「望み」と「行ない」というふたつの言葉が心に浮かんできます。

聖典を調べ、天父と誠実に交わろうと努めると、望みがわきます。証を強めたいと願っているときは、正しくありたいと思うものです。そのような正しい望みを行ないに表わし、試みます。望みが弱くなり始めると、神との交流も途絶えがちなこと気づきます。キリストの教えについて証が得たいなら、日々その教えに従う努力をしなければなりません。つまり、聖典に記されている言葉を実際に行なうことによって、私たちは望む知識を得ることができるのです。

ユタ州セントジョージ

シンシア・アルトン

何にも代えがたい貴いもの

私は改宗して1年半になります。イエス・キリストと福音について自分自

身の証を持ち、強めることは、教会員にとって何にも代えがたい貴いものであることがわかりました。この1年半、まだ信仰の弱い私に役立った事柄をいくつか挙げてみます。

神殿に入るふさわしさを備えた友達と交際すること。これは今でも助けになっています。予言者や使徒の言葉にいつも耳を傾けること。彼らはこの世で私たちを教え導く責任を持つ人々です。神殿にしばしば参入し、聖餐会、日曜学校、神権会、扶助協会にいつも出席すること。私にとっていちばん役立ったのは、祈りと聖典の勉強、そしてふさわしい書物を読むことでした。アルマ書第32章36節から43節には、これまで読んだ中で、証について最も美しいたとえのひとつが記されていると思います。

私が学び、成長するために、以上が助けとなりました。いつの日か「あらゆる甘いものよりも甘い実を取るように、これからも続けて「木を養い育て」ていこうと思います。

ユタ州カーンズ

ジェリー・J・ウォルター

喜んで

以下は個人の証を強め、維持するための簡単な方法です。

●**喜んで祈る。**そうすれば、愛に満ちた天の父と救い主のいらっしやるのがわかります。

●**喜んで福音を受け入れ、イエス・キリストの贖い、苦しみが自分のためになされたことを信じる。**

●**助けと導きを求めて祈る。**

●**聖典を学ぶ。**

●**毎週聖餐を受ける。**

●**証を人と分かち合う。**

カリフォルニア州サクラメント

テリー・K・ホルコム Jr.

信仰を養い育てる

日々の忙しい生活の中で、立ち止まって霊的なきずなを強める必要があることに私は気づきました。私が勤めるのは、みたまを招き、心の平安を取り戻し、信仰を強めることを行なう時間を設けることです。信仰を養い育てる活動には、次のようなものがあります。霊を鼓舞する音楽や教会の賛美歌を聞く。神殿に参入する。教会の刊行物や教会幹部の書いたメッセージを読む。日記を付けるなどです。

教会の責任を果たすに当たって祈りの気持ちで準備することも、証を得るのに役立ちます。

バージニア州ローアノーク
ナンシー・レイトン

真実の祈りになりました

5年前に個人的に劇的な出来事を経験して以来、私は以前より真剣に神殿に参入するようになりました。さらに、毎日聖典を読み、救い主の絵を家に飾

り、車を運転するときには啓示の理解に役立つカセットテープを聴くようになりました。しかし、何よりも大きな変化は、真実の祈りをするようになったということです。

以上のようなことを行なうと、霊性が高まり、それによって証も強められました。個人の啓示を受けるふさわしさを保つなら、主は私の生活に力を及ぼし、身近にいてくださることがわかってきました。機会があれば私はいつでもそれを証していきたいと思います。
アイダホ州ポイン
ソンドラ・ダールハンセン

福音を実際に行なう

●福音を学ぶ。ジョセフ・スミス の模範は偉大でした。彼の聖典研究はとどまることを知らず、より深まっていきました。

●助けを求めて祈る。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門を

たたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう」(マタイ7:7)という勧告は聖典に何度も出てきます。「無視せよ、疑いつつそっとたたけ」とは書かれていません。

●福音の真理を実際に行なってみる。救い主はこう言われました。「モつみころを行おうと思う者であらば、だれでも、わたしの語っているこの教は神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ7:17)
ユタ州プロボ
ゲリー・B・ワイズ

キリストの愛

証は人の心に宿る、個人的なものです。証なくして霊的な成長はできません。人生の試練を乗り越え、長く信仰を保つために必要な確かな証を築くには、何年もかかることもあります。

私は青少年の時代に、家庭で成長し、福音のさまざまな活動を通じて、すばらしい証を築くことができました。ですが長年の経験から、人生のさまざまな試練に自分で立ち向かうには、もっと堅固な証を築く必要があることを知っています。

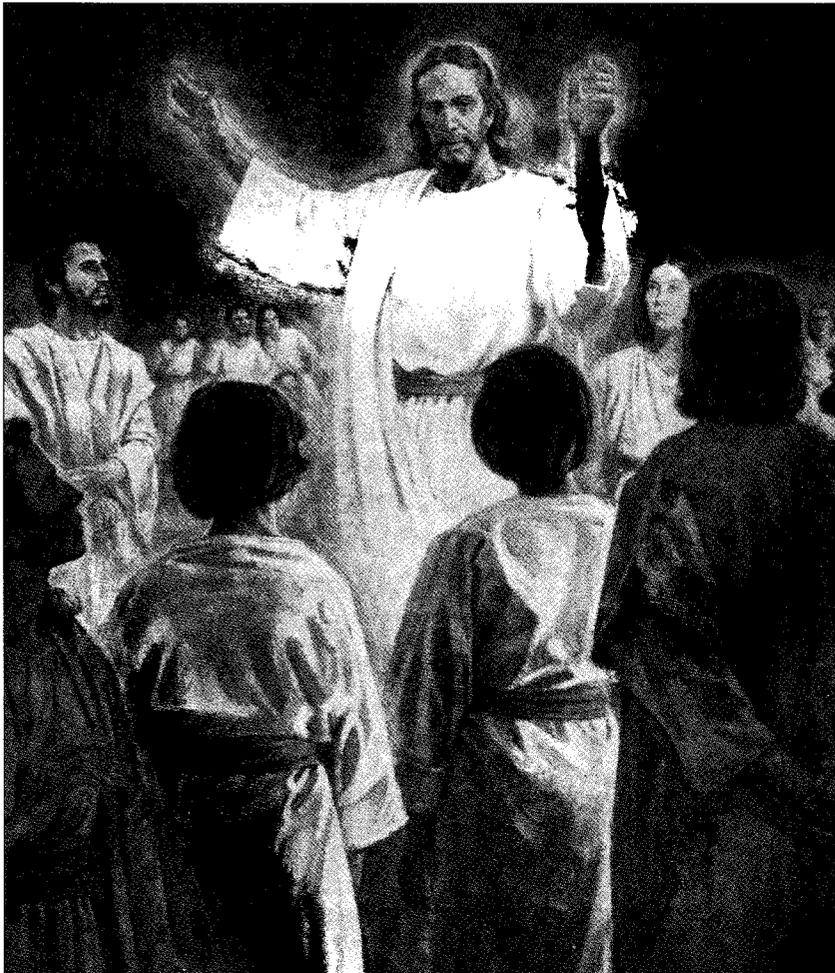
妻としてまた母として、私は今、個人の祈りや日々の聖典の勉強、また心にいつもキリストの愛を持つことを通して、確かに成長し、どんな状況、問題、疑いに直面しても、みずからの足でしっかりと立てることを知りました。堅固な証を築くなら、燃えるような思いと望みを、いつも心の中に持ち続けることができるのです。

テキサス州シュガーランド
パティ・マクレンドン

まとめ

1. 日々、聖典を学び、力と導きを求めて祈る。
2. 霊性を高める。福音を實踐する。義を求める。
3. 神殿にしばしば参入し、教会の集會に出席する。
4. 教会指導者の教えに耳を傾け、よく学ぶ。

(「チャーチニュース」1993年10月16日付)



CHRIST TEACHING IN THE SPIRIT WORLD, BY ROBERT T. BARRETT

岡本亮兄弟、 JMTC新所長に召される

1994年1月、これまでJMTC(日本宣教師訓練センター)所長として、召しを果たしてこられたハリソン・テッド・プライス所長が解任され、新たに岡本亮兄弟が菅長会より召された。これにより約2年間にわたって、JMTCを管理することになる。岡本所長は1979年から1982年まで、岡山伝道部伝道部長を務めている。

岡本亮所長(52歳)は、韓国城津で岡本轍、美代子(旧姓佐々木)夫妻の間に

生まれた。的場好子姉妹と結婚し、4人の子供がいる。東京東ステーク部鎌ヶ谷ワード部所属。これまで、支部長、ステーク部長、伝道部長、地区代表、ステーク部宣教師などを務めてきた。京都大学工学部建築学科卒業。教会の地域管理本部総合施設部部長としての役職も兼務している。

京都出身の岡本姉妹は、的場浅治郎、花枝(旧姓大沢)夫妻の間に生まれた。これまで支部扶助協会会長、ステーク



岡本亮所長ご夫妻

部若い女性会長、ステーク部宣教師、ステーク部初等協会会長などの召しを果たしてきた。□

4回目の伝道を終えて

前日本宣教師訓練センター所長 ハリソン・テッド・プライス

1994年1月25日、私と妻はふたりにとって4度目に当たる伝道の召しを全うし、ユタ州にある我が家への帰路に就きます。数多くの愛する友人たちと別れ、すばらしい思い出を胸に去っていきます。

私は、戦後初めて日本に来た5人の宣教師のひとりとして、1948年6月に横浜に到着しました。当時、戦前からの教会員は、日本じゅうで166人しかいませんでした。この最初の長老たちは何の語学訓練も受けずに来日し、3年ないし4年間、伝道の業に携わったのでした。当時の伝道部長であったエドワード・L・クリソード長老は、アジア地域で初めて教会所有の建築物となった建物を1万ドルで購入しました。その建物というのは戦火に見舞われたコンクリートの家で、屋根には爆弾による穴がふたつ開いていました。それが東洋初の伝道本部になり、現在ではその場所に東京神殿が建っているのです。そして、この最初の宣教師たちは聖霊の導きを得て、将来教会の義にかなった指導者になる人々を数多く教会に導きました。

1949年、私たちは修繕された伝道本

部の書齋に、十二使徒のマシュー・カウリー長老を迎えました。カウリー長老を囲んで、宣教師とアメリカ人、そして日本人の信仰深い聖徒たちが何人か集まっていました。伝道本部の建物を献堂するこの奉獻の祈りの中でカウリー長老が述べた次のような予言を、私はこの耳で確かに聞きました。「日本の地に教会堂が数多く建てられ、いくつもの神殿も建てられるでしょう。」カウリー長老は、神殿はひとつだけであるとは言いませんでした。使徒によるこの予言がなされた場所は、現在、神殿1階のロビーに当たります。

30年以上もの間、宣教師として、大使館の職員として、そして再び宣教師として、日本における教会が奇跡的な発展を遂げるのを喜びながら目にしてきました。1948年以来、2万5,000人以上の外国人宣教師が、この国で主に仕えようと励んできました。約4,000人の日本人宣教師もまたこの地で伝道してきました。しかし過去3年間、日本人の宣教師の数は確実に減少してきています。長老の職を持ち、将来神権指導者になるであろう若人たちは、キリストが「まず神の国……を求め

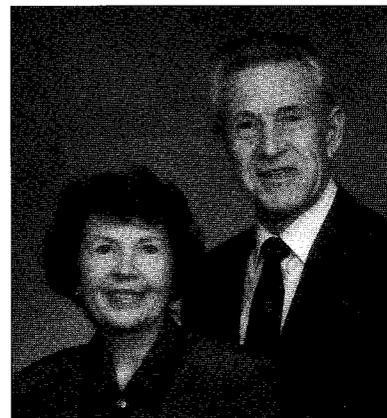
〔る〕」(マタイ6:33)者に約束された祝福を無にしているのです。

たいいての帰還宣教師は、引き続き福音に忠実な生活を送り、結婚生活や仕事の面でも満ち足りた思いを抱えています。私が心から信じていることですが、もっと多くの日本人が、もっと多くの日本人を改宗する必要があります。神の王国は「外人」の教会ではありません。この回復された福音はまさに「神の業にして神の栄光」(モーセ1:39参照)であることを証いたします。

現世で再びお会いすることはないかもしれませんが、終わりの日に、私たちが互いにパウロのようにこう語れることを願ってやみません。

「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。」(IIテモテ4:7)□

プライス前所長ご夫妻



再組織された秋田地方部長会

昨年10月17日、リチャード・M・オースティン仙台伝道部長管理の下に開催された秋田地方部大会で、1987年4月より地方部長の責任を果たしてきた佐々木利宏兄弟が解任され、新たに佐藤祐輝兄弟が召された。第一副地方部長には、佐々木聡兄弟が召され、その任に当たることになった。

「良き名は良き油にまさり」

仙台伝道部秋田地方部長 佐藤祐輝

「私 すなわちニーファイは善い父母から生れたので……。」(I ニーファイ 1:1) 私は、この聖句を読むたびに予言者ニーファイと同じように、自分の両親に対して特別な思いを抱きます。

私の両親は、私に「祐輝」という名前をつけてくれました。「祐」は神様の助け、「輝」はひかり輝くという意味があります。福音を知らない両親が、なぜこのような名前を私につけたかはわかりません。しかし、私は名前のおりいつも人の力を超えた助けを信じていましたし、感じていました。

もちろん、福音を知る前は神様の助けがどういふものか、はっきりすることもありませんでした。しかし、今から約11年半前に宣教師の口を通して聞いた福音は、人の力を超えた助けの意味を明確にしてくれるものでした。宣教師が私に伝えてくれた教えは、文字どおり私にとって喜ばしいおとずれで

あり、心の中にひとつの太い芯を作ってくれました。

以来11年半、私の太い芯はたくさん人の助けを受け、まっすぐに保たれてきました。

助けの第1は、「家族」です。

愛する妻と神様からいただいた3人の子供。現在の私の生活は、このかけがえのない4人なくしてはあり得ないものとなりました。この4人から日々多くの祝福と励ましを受けています。

ともに同じ目標を持ち、喜び、楽しみ、悲しみを分かち合うことのできる4人の永遠の「友達」に現世で逢えたことを何よりも感謝しています。

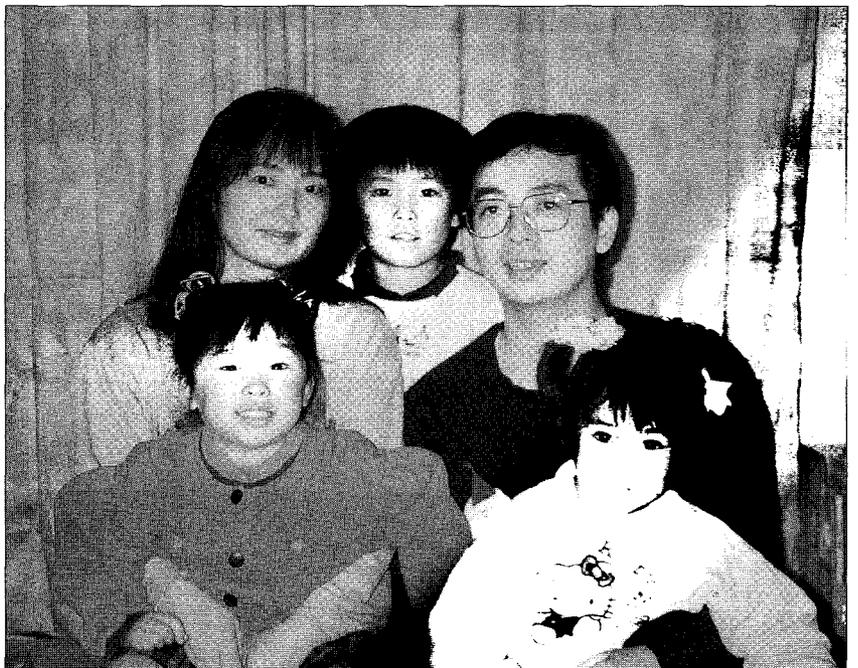
助けの第2は「指導者」です。

私は仙台で改宗し、転勤で北海道、東京そして秋田と移り、現在の職場が6カ所目になります。どの地にあっても、熱心に忠実に働く指導者は私の模範であり、目標でもありました。

改宗して間もないころ、当時のステーキ部長が「この教会には、奇跡があります」と話されたことが私の脳裏から離れませんでした。奇跡、奇跡……。奇跡をただ待ちわびる当時の私にはこの意味がわかりませんでした。奇跡は主に対する信仰と戒めに対する従順の結果であり、みずからが作り出すものであることがわかり始めたころには、自分が指導者と呼ばれる立場になっていました。

すべての指導者が主のみ業を進める

佐藤地方部長ご家族



佐藤祐輝地方部長の紹介

1959年秋田県生まれ。23歳でバプテスマを受ける。1985年、金田佐智子姉妹と神殿結婚し、現在3人の子供がいる。秋田地方部秋田支部所属。労働省職員。これまで、副地方部長、副監督、副支部長、セミナー教師などを歴任している。

テンプルスクウェア

ために、前世で選ばれ備えられた人であることを知ったのもこの時期で、これらふたつの教えは私にとって大きな支えとなりました。

助けの第3は、「友人」です。

転勤が多いせいか、私や家族にはたくさんの方の友人がいます。彼らすべては私や家族の財産です。友人の中には、愛をもって励まし、助けてくださった教会員もたくさんいますが、福音を知らない兄弟姉妹もたくさんいます。彼らからも、私や家族は教会員同様、また人によっては教会員以上に励ましや助けを受けてきました。現世で築いた彼らとのよい関係を永遠の関係にし、真の兄弟姉妹になるのが私や家族の目標になっています。

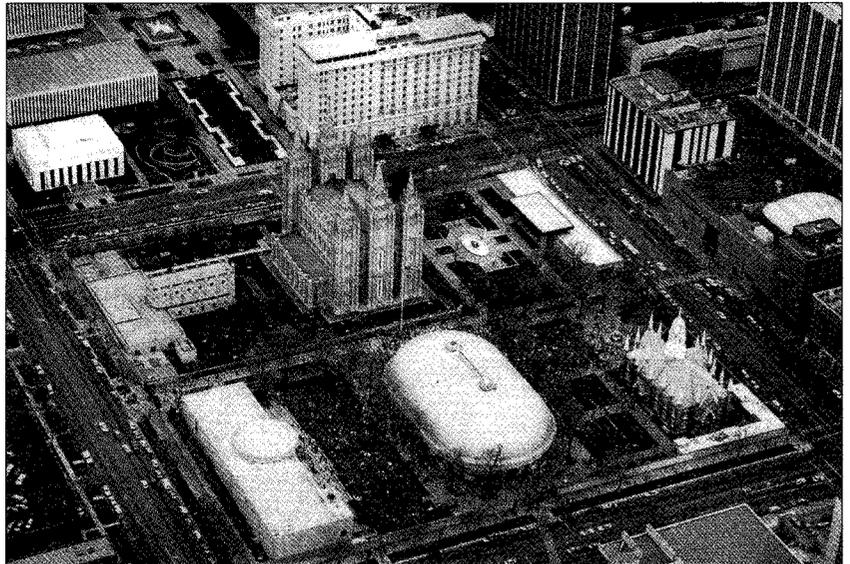
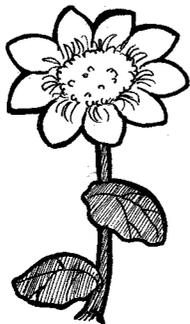
助けの最後は「モルモン経」です。

モルモン経はいつ、何度読んでも内容に矛盾がなく、完璧で私にとって不変の教師です。

改宗当時から、キリストの真実性や贖いについて疑いを持ってはいませんでした。しかし、より高い確証を得るためにモルモン経は私にとって最大の武器であり、人間として、また愛に満ちた神としてのキリストを知るためにも有益でした。

モルモン経の中のさまざまな背景の中で、「すべての聖文を私たちのためと見立て」(I ニーファイ19:23)るときに、ニーファイやアルマ、モロナイは私のよき指導者、同胞、助け手、親友でした。モルモン経に感謝しています。

地方部長の召しを受けた時の謙遜な気持ちをいつまでも忘れず、「良き名」(伝道7:1)に恥じぬよう全力を尽くしたいと思っています。(さとう・ゆき)



上—テンプルスクウェア

(左上から、神殿別館、ソルトレーク神殿、訪問者センター南館。左下から、訪問者センター北館、タバナクル、アッセンブリーホール)

下—テンプルスクウェアの日本人宣教師

(左上から、宮平姉妹、公平姉妹、中野姉妹、河井姉妹、加藤姉妹、水野姉妹。左下から、早志姉妹、辻姉妹、池田姉妹、松波姉妹)



エアの日本人宣教師たち

主の山の家, テンプルスクウェア

元ソルトレーク・テンブルスクウェア訪問者センター伝道部専任宣教師

河井美保

「ソルトレーク・テンブルスクウェア訪問者センター伝道部」というのが私たちの伝道部です。テンブルスクウェア伝道部はほかの伝道部とはかなり趣を異にしています。私たちには求道者がおらず、つまりレッスンを行なうことはほとんどありません。私たちは、この美しいテンブルスクウェアを訪れる世界じゅうからの訪問者と話したり、テンブルスクウェア内で建物の歴史などを説明する無料のツアーを行ったりします。テンブルスクウェアは4万平方メートルの広さがあり、敷地内に荘厳なソルトレーク神殿がそびえ立っています。そのほかタバナクルやアッセンブリー・ホール、北・南ふたつの訪問者センターがあり、神殿以外は訪問者へ一般公開しています。この敷地内に今、世界約20カ国から召された200人余りの宣教師が働き、1時間ごとに交代になる割り当てに従い、日々伝道に励んでいます。

夏期は朝8時から夜10時まで開いて、10分おきに45分間でテンブルスクウェアを紹介するツアーがあります。そしてこのツアーを通して霊的な経験ができるよう助け、証をします。その中で末日聖徒イエス・キリスト教会のことをもっと知りたい、モルモン経がほしいと思われる教会外の方からお名前と住所をいただき、各々の伝道部(宣教師)へ送っています。

私たちは一般の伝道部の宣教師のようにバプテスマ会を見ることはありませんが、世界じゅうのまったく何の知識もない、または教会の教えに反対の気持ちを持っている人々とで

え霊的な時間と経験を分かち合うことができるのは、大きな喜びです。また、テンブルスクウェアの訪問をきっかけに宣教師から福音を学び、バプテスマを受けられたかたがたのお話を聞く時に、この上ない喜びを感じます。

そして、4月と10月には総大会がこのテンブルスクウェアのタバナクルで行なわれています。そこでは、大管長会をはじめとする教会幹部の長老や姉妹たちの靈感あふれるお話を聞き、訪問者は特別な経験をすることができます。

テンブルスクウェア以外にも、昔高級ホテルだった「ホテル・ユタ」を1993年に改築した「ジョセフ・スミス記念館」でも働きます。建物の中には500人収容可能な映画館があり、「レガシー」(われらの遺産)の上映を通し、ジョセフ・スミスの殉教や当時の開拓者について紹介し、やはり訪問者の要請を得て、各々の伝道部へと連絡します。

また約200台のコンピューターのある家族歴史センターで、訪問者にもわかりやすく「系図」を紹介します。これは、マラキ書の予言を成就させるためのものとして一般の人々にも「子供たちの心をその父に向けさせ」ます。(マラキ4:6)興味深いことに、まったく知識のないかたがたも、だれか知っている人の名前が見つかるとう声を上げて喜び、彼らの先祖に対して興味を持ち始めます。

私たちは、18カ月の任期のうち4カ月だけ、アメリカ合衆国内のほかの伝道部で働きます。私は1992年9月から1993年1月までアイダホ州のボイシ伝

道部で普通に求道者を教え、教会員の助けを得て伝道する経験ができました。

予想外にも、転任した初日に日本人留学生に教える機会がありました。ボイシ伝道部には日本語を話せる宣教師がいなかったため、私が転任して来たことは、まさに天父のみこころだと知りました。また、どこへ召されようと、それぞれの地で私たちには会わなくてはならない人々がいることも知りました。ふたつの違った伝道ができたのは大きな祝福と感謝しています。

ある日のツアーでとてもすばらしい経験をすることができました。ふだんはふたりの宣教師がペアになってツアーをしますが、忙しい時間帯でしたので私ひとりで行ないました。ところが、それまでに例のないほどかたくなな訪問者ばかりで、証をしても冗談を言っても他人事のような顔。そのうえひどく酔った若者が何人かいて、私が何かを言うたびに「現代に奇跡はあり得ない」などと言って大笑いしていました。45分間のはずのツアーは2時間にも3時間にも思え、泣きたい気持ちを抑えてそのツアーが終わりました。

終わると同時に、私は姉妹たちの勉強部屋へ駆け帰り泣いてしまいました。なぜあれほど祈って彼らの心を和らげてくださるようお願いしたのに祈りは聞かれなかったのか、という思いと自分の力のなさにひどく落ち込んでいました。二度と人前でマイクを握ることはしないという思いでとても苦しみました。

ところが人手不足のために、スケジュール変更でもう1度ひとりでツアーをするよう頼まれました。すぐに私は先ほどの出来事を話し、二度とツアーはしたくないのでほかの責任をくれるように頼みました。すると、担当の姉妹はゆっくりとした調子で「それは天父のみこころだったからじゃない？ そしてもしかしたら、このツアーには姉妹の会わなければいけない人がいる

のかもしれない。いなくてもそれはみこころ」と言いました。その時にはっきりと宣教師として準備されている人を探すことの大切さを知りました。また力いっぱい頑張ったなら、その努力は天父の目の前にあって輝いているということも知りました。

再び力を得て、今度は私が会わねばならない人を見つけることができるよう祈り、ツアーへ向かいました。数人の小さなツアーでしたが、そこでアメリカ東部からやって来た旅行中のご夫婦に会いました。奥さんの方はtemplスクウェアに立っているだけで涙ぐんでいる様子だったので、ツアーの合間にいろいろお話ししました。彼女はソルトレークへ来る予定はまったくなかったのに、車の調子が悪くなったので、近道をするためにソルトレークを通ったのだそうです。templスクウェアのすぐわきにある「モルモン・ハンディクラフト」に目が留まり、手芸好きの彼女は無理に車を止めてもらって買い物をしました。そこで教会員のだれかが、彼女がソルトレークへ初めて来たと聞いて、templスクウェアへ行って見学をするようにと勧めました。

そして、彼女は私のツアーへと来たのです。門をくぐった瞬間にすばらしい平安と力強い神殿の神聖さが彼女の心を打ちました。ツアーの最中でモルモン経について紹介しますが、その直後に「どうすればその本を読むことができるの?」と聞かれ、「ここから地元の宣教師に訪問して紹介するように要請できます」と伝えると大感激していました。

クリスタスというイエス像のある所で証をしている時にも、涙を流し、みたまを一身に感じることがわかりました。結局彼女は宣教師からの訪問が待ち切れない様子で旅を続けるために帰って行きました。

なんとも不思議なことに、まったく予定のなかったソルトレークへ、彼女は主により導かれたかのように立ち寄って、私のツアーへ参加しました。二度とマイクは持たないという私の気持ちはすっかり消えていました。

伝道を通し、みこころに従うことへ

の証を増し、福音の理解を深めることができました。天父は私たちに祝福を与えようといろいろな方法を使われます。そして、それを選ぶか否かは私たちにかかっています。伝道はそのひとつです。準備されているチャンスをつかんでください。そしてソルトレークへお立ち寄りの際は、ぜひtemplスクウェアへいらしてください。日本人の私たちが日本語でご紹介します。

毎日世界じゅうの人々がtemplスク

クウェアへと訪れます。そして予言どおりに、福音が広められています。「さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道に歩もう。」(イザヤ2:3)ロッキー山脈のふもとに建てられた主の神殿は福音が真実であると証しています。(かわい・みほ 岡山ステーク部津山支部)

「身に迫る苦難を 気長に堪え忍べ」

元ソルトレーク・templスクウェア訪問者センター伝道部専任宣教師
早志千晴

ソルトレークのtemplスクウェアで私はさまざまな人々に会い、たくさんの方から、また聖句から励まされてきました。特に来たばかりのころは、英語力の問題や、宣教師としての新しいチャレンジを受けて苦しい思いをしていました。

その時、私は訪問者センター南館の

templビュー・ルームという、大きなガラス張りの壁から神殿が美しく見える部屋のガイドに当たっていました。本来ならばその部屋に来られた訪問者と話をし、伝道をしなければならなかったのです。しかし、その時は「私にはこの伝道はできない。もうこれ以上は無理……むずかしすぎる」と気落ち

templスクウェアの各国語でのツアー
(日本語のプラカードを持っているのは早志姉妹)



片言の英語で証を

元ソルトレーク・テンプルスクウェア訪問者センター伝道部専任宣教師
中野早枝香

し、部屋の隅にあるいすに座って、ただうなだれてモルモン経を読んでいました。さりげなく開いたページを読み進めているうちに、私の胸に神様の励ましと愛がいっぱい広がっていきま

した。「それであるから、私たちがすっかり元気を失ってまさに引き返そうとしたときに、主が私たちに慰めはげまして仰せになった『汝らの同胞であるレーマン人の間に行き、身に迫る苦難を気長に堪え忍べ。われは汝らに成功を収めさせる』と。」

「私たちは自分の働きの結果、できるならば一人でも救うことができようかと思って甘んじてあらゆる艱難を身に受けた。そして私たちは、もし私たちのために多少でも救われる人があったならば、この上もない喜びであると常に思っていた。」(アルマ26:27, 30)

みたまに満たされて私は笑顔で立ち上がり、そばで神殿を見上げていた人々に、すぐに話しかけました。

アンモンも私と同じように苦しみ、その中で信仰を強く持って伝道を続けていきました。今、私も彼がいた同じアメリカ大陸で、さまざまなチャレンジを与えられつつ伝道しているのです。チャレンジなしに大きな成功はありません。そしてこの「苦難を堪え忍ぶ」ことによって、たくさんの人々が救いに至る道を見つけ出すことができるならば、宣教師としてそれほど大きな喜びがあるでしょうか！ この伝道の基本、また教会員として靈的に成長する基本を、この時に改めて知らされた思いがしました。

テンプルスクウェアは特別な場所です。その門から1歩足を踏み入れると、とても穏やかな気持ちになります。そして求めれば、自分がみたまをいっぱい感じることがすぐにわかります。このすばらしい伝道部で働く機会が与えられていたことを本当に感謝しています。また伝道中、私を励ましてくださったたくさんの教会員の皆さんに心から感謝しています。そして何より世界じゅうで福音を強く宣べ伝えている宣教師たちに心から感謝しています。(はやし・ちはる 福知山地方部相生支部)

伝道に出てからの私にとっていちばんの試練と言え、やはり英語の問題でした。言いたいことが言えないというのはつらいもので、日本で伝道しているアメリカ人宣教師たちの気持ちが、初めて本当に痛いほどよくわかりました。何もできない自分が悔しく、何度も泣く日が続きましたが、それを克服するすばらしい経験が与えられました。

ここテンプルスクウェア伝道部では4カ月だけ、ほかの伝道部で働く機会が与えられます。私はネバダ州のラスベガス伝道部に召されて伝道し、そこである女性と出会い、その日のうちに福音を教える機会がありました。片言しか英語を話せなかった私は、今自分にできることは証を伝えることだけだと思い“I know Jesus Christ is my Savior. He is my brother”(イエス・キリストが私の救い主であることを知っています。キリストは私の兄弟です)と心から証すると、その女性は目に涙をいっぱい浮かべ、みたまを感じているのがよくわかりました。レッスン後、みたまに促されて初めて会った

その女性に私は“Will you be baptized?”(バプテスマを受けてくださいますか?)と尋ねると、彼女は目に涙を浮かべ“Yes”と言ってくれました。約3週間後に彼女はバプテスマを受け、数カ月後には彼女のご主人もバプテスマを受けました。

この経験を通して、福音を伝えるときに大切なのは言葉ではなく、みたまであることを学び、弱点を克服することができました。また、主が私を謙遜にするために試練を与えてくださったことを知りました。なぜなら、謙遜になると、みたまがあり、みたまによってしか人を改宗へ導くことはできないからです。

伝道後、この証を日本で伝道している外国人宣教師たちと分かち合い、助けたい気持ちでいっぱいです。彼らの気持ちが少し理解できただけでも伝道に出て本当によかったと思います。人の弱さは必ず強きに変えられる(イテル12:27参照)ことを心からへりくだり証いたします。(なかの・さえか 福岡ステーキ部井尻ワード部)

テンプルスクウェアでまかれた福音の種

元ソルトレーク・テンプルスクウェア訪問者センター伝道部専任宣教師
池田裕美子

なぜ、英語のできない私がアメリカに召されたのでしょうか。希望と不安をたくさん抱いてやって来た、ソルトレーク、テンプルスクウェア。MTC(宣教師トレーニングセンター)の支部長は私にこのように言ってくさいました。「池田姉妹、なぜあなた

がここに召されたのかわかりますか。主があなをここで必要としているのです。」

私にはテンプルスクウェアの伝道が初め理解できませんでした。ひとりでも多くの人に福音を伝えたいとやって来たのに、門の前に立ち笑顔でほほえむ

だけの毎日が続きました。宣教師としてレッスンを教えることも、バプテスマを見ることもありません。どんなに訪問者と仲良くなっても、また福音を受け入れる準備ができていない人に出会っても、その場かぎりでさよならがやってきます。寂しさとジレンマを感じていました。

伝道に出てしばらくして学んだのは、本当の伝道とはどのようなものであるかということです。イエス・キリストに従う者として、私たちの証は言葉だけでなく、笑顔となり、思いやりの態度やあいさつとなり、私たちのすべて

で表わすことができます。イエス・キリストは「汝らはいかなる人物にてあるべきか。まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず」(Ⅲニーフアイ27:27)と教えられました。私たちはイエス・キリストに近づこうと生活するときに、私たちの生活自体が証となり伝道につながっていくのです。そしていついかなる時でも、どのような所においても、どんなことについても主の証し人となることができます。伝道は宣教師だけがするものではなく、いつでもだれでもが伝道することが可能なのです。

この美しいテンプルスクエアで私たちが人々の心の中にまいた福音の種は、たとえその結実をこの地上で目にすることがなくとも、世界じゅうで大きく生長し花を咲かせていることでしょう。

確かに主が私をアメリカの地で必要としてくださっていることを知っています。この教会はイエス・キリストの真実の生命ある教会であり、伝道の業がなによりも尊い主の業であることを証します。(いけだ・ゆみこ 町田ステーク部 藤沢ワード部)

備えあれば怖るることなからん

——逆境の中で得た平安と祝福——

大阪伝道部奈良地方部奈良支部 玉置和子

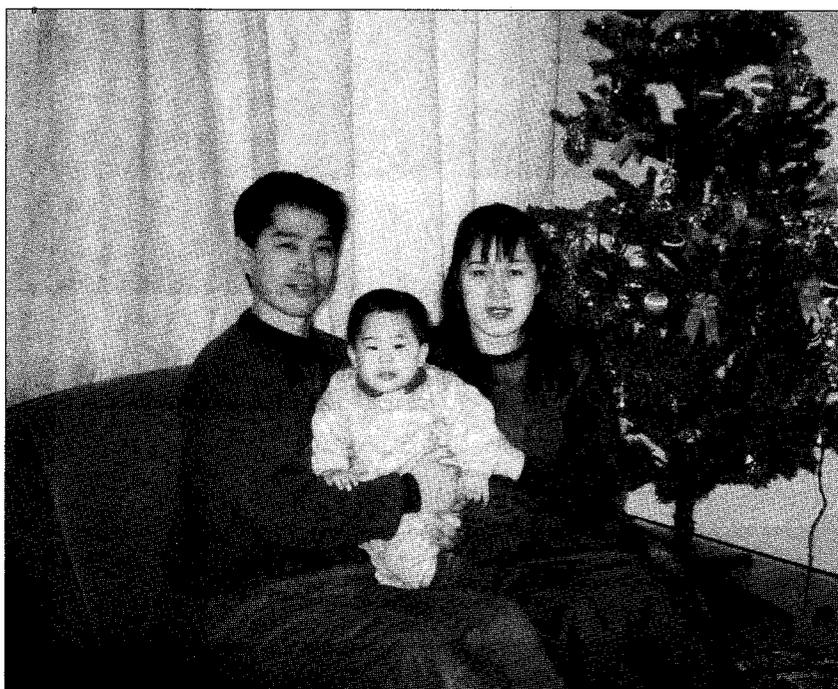
昨年の7月の終わりに、突然夫が高熱を出して倒れました。朝晩2回の点滴で熱を下げようとしたが下がらず、通院を始めてから1週間後に原因がわからないまま入院することになりました。いくつもの検査の後で、お医者様は夫の病気が「くも膜下出血」であると診断を下されました。それから脳神経外科のあるもっと大きな病院へ転院して、さらに詳しい検査を受けました。病気が病気だけに、私たちは長くなるかもしれないと覚悟しました。

私たちは夫の収入だけで生活しており、当時生まれて8カ月の息子もいた私には当然ながら収入はありませんでした。普通ならば、ここで経済的な心配があるのかもしれませんが、私たち夫婦は結婚してからずっと1年分の食糧と日用品を貯蔵していましたし、1、2年は収入がなくても生活していけるだけの蓄えもあったので、治療以外に心を煩わせずに済みました。

食料貯蔵を始めたばかりのころは試行錯誤の繰り返しでしたが、わからなかったところは少しずつ主の導きを受

けて続けていくことができました。教義と聖約の第38章30節には、「されど、もし汝らに備えあれば怖るることなからん」とあります。まさか今回のようなことで、この聖句についての証を得

ることになるとは思っていませんでしたが、主が予言者を通して与えられる勧告には従順に従うことを、いつもふたりで決めていました。入院した当初、正直なところ夫は生活や仕事のことを



玉置ご家族

随分と気にしていましたが、貯蔵のことや貯金のことを思い出すと、心に平安を取り戻せたようでした。

しかし、私の心の中は叫びだしたくなるような思いでいっぱいでした。毎日、小さな我が子を抱えて病院へ通うのですが、家に帰る時は寂しさが倍になったように感じたものでした。どれほど夫を愛していても、私には彼の痛みを和らげてあげることはできません。無力な私は、家に帰ると毎日泣きながら天父にお祈りするばかりでしたが、全能の主は私の祈りを天父に届けてくださいました。そして聖なる神権をつかさどる神権者が病院に夫を訪ねて来て、彼のために涙を流して祝福を授けてくださいました。

絶対安静でベッドからまったく動けない時もありましたが、大いなる癒しの祝福によって、その後お医者様も驚かれるほどの早さで夫は元気になることができました。また、私のおなかの中には、ふたり目の赤ちゃんがいましたが、その時はちょうど妊娠2カ月目から3カ月目の流産の危険があるころだったので、最悪の場合、もしかしたら流産してしまうかもしれないとも覚

悟していました。けれども救い主は、夫だけでなく、おなかの赤ちゃんをも守ってくださいました。本当に感謝しています。

おなかの赤ちゃんも、もうすぐ生まれてきます。私たち夫婦の元へ、また新しい生命が託されることとなります。この子は、私たちが精神的にも肉体的にもつらい時期を乗り越えてきたことを知っています。今さらながら、私は自分がよく倒れなかったのだと驚いています。きっと、もうすぐ生まれてくるこの子も、おなかの中で一緒に頑張ってくれていたのでしょう。

夫は今も定期的に検診を受けているのですが、退院後何回目かの検診の時に、主治医の先生は私たちに、夫の回復が順調なことを告げた後に、次のように言われました。「玉置さんのようなケースだと、とっくの昔に親戚を呼んでいるのが普通なんですよ……」と。その時、夫が救急車で病院へ運ばれていく時のサイレンの音や、病院の廊下でひとり検査が終わるのを待ちながら、「彼をお守りください」とお祈りしたことを思い出しました。今では夫も仕事ができるほど元気になり、家族そろ

って教会へ行くこともできます。軽い後遺症としての頭痛は、今もときどきあるようですが、私たちは自分たちのできるところまでを精いっぱい行なえば、足りないところは神様が助けてくださることを知りました。

今回の経験を通して、夫が得た証と私が得た証、神様からいただいた豊かな祝福によって、私たち家族の愛はより一層深まり、以前にも増して強く一致することができるようになりました。私たち夫婦は、夫が退院して家に帰ってこられた時に、これからの一生、主のみ名を讃美することと、主の戒めを守ることを改めて固く決心しました。神様は全身全霊を傾けて祈るときに、みこころに応じてその祈りにこたえてくださいます。また、神権者が神聖な目的のために神権の力を行使するとき、神様の特別な愛と恵みを感じることができるとを証いたします。主の予言者が私たちに与えてくださる一つ一つの勧告は、確かに私たちに必要な備えをさせるためであることを証いたします。(たまき・かずこ)

お知らせ

ローカル

役員の変動

神殿宣教師

1993年12月1日から1994年1月26日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 東京ステークス部
新ステークス部長：鈴木和夫
(前任者：内山雅臣)
- 大阪堺ステークス部
新ステークス部長：南本邦雄
(前任者：小松忠)
- 札幌ステークス部旭川第1ワード部
新監督：黒瀬篤範
(前任者：佐藤良三)
- 東京北伝道部新潟地方部長岡支部
新支部長：野崎寛志
(前任者：赤沢良一)
- 東京北ステークス部川越ワード部

- 新監督：笹山裕史
(前任者：伊藤文敏)
- 東京東ステークス部八千代ワード部
新監督：田淵裕哉
(前任者：衛藤千代治)
- 東京ステークス部ひばりヶ丘ワード部
新監督：浜田政邦
(前任者：鈴木和夫)
- 名古屋伝道部富山地方部高岡支部
新支部長：大井博美
(前任者：礪波和也)
- 岡山ステークス部米子ワード部
新監督：小池英雄
(前任者：安達和男)
- 沖縄伝道部石垣支部
新支部長：山田豊
(前任者：BANRY, JARED JOSEPH)

1994年2月現在、東京神殿に召されている日本人宣教師(敬称略、カッコ内は出身地)

- 山口薫，和子
(福岡伝道部鹿児島地方部鹿児島支部)
- 小室敬，幹子
(横浜ステークス部大船ワード部)
- 西原良男，キクノ
(我孫子ステークス部牛久ワード部)
- 泉勝比古，勝代
(町田ステークス部藤沢ワード部)
- 郡田 堯，愛子
(岡山伝道部高松地方部徳島支部)
- 伊東千代子
(札幌西ステークス部新琴似ワード部)

せい さん 聖餐を通して 救い主を思い起こす

祭

司や律法学者たちがイエスを殺そうとたくらんでいた時、イエスは弟子たちと一緒に最後のひとときを過ごしておいでになりました。ゲツセマネ、そしてカルバリの丘と続く一連の出来事が、ほんの数時間先に迫っていました。間もなく、イエスに従った人々は取り残され、彼らの信仰に敵対するこの世と直面することになります。これまでのように毎日主のみそばで励ましを受けることはできません。そんな状況で信仰を保つという困難な課題に立ち向かうのです。また、歳月がたっても、救い主が自分たちのために命を捧げてくださったことを忘れないようにしなければなりません。そして、主のみもとで永遠に生活できるよう、主の戒めを心に留め、守ることが必要になるのです。

最後の晩餐に集った人々、また、後にみずからを主の弟子と呼んだすべての人に、主はある贈り物をくださいました。それは聖餐であり、救い主の教えと贖いを毎週思い起こさせてくれます。聖餐を通して私たちは、主が地上におられないこの寂しい状況にあっても、主のみたまとともに生活することができるのです。

常に主のみたまを伴侶とする

聖餐のパンと水は、救い主が私たちの罪を贖うために犠牲にされた主の体と血を思い起こさせてくれます。私たちは、これらのしるしを食べ、飲むことにより、主の愛と犠牲を思い起こすように、主から招かれているのです。



ILLUSTRATED BY LONNIE CLARKE

また、バプテスマの時に交わした神聖な約束を新たにする機会を与えられています。私たちはイエス・キリストのみ名を受け、主と、主のみ名、主の教会、主の教えにひたすら心に向け、主の福音にそって生活することにより、新たに主のみ名を尊ぶと誓約することができるのです。

このようにして救い主を常に思い、心に留めるなら、バプテスマの時に感じた、霊が清められる思いを再び味わえるでしょう。一日一日を新鮮な気持ちで迎える子供たちのように、罪や過ちの重荷から解放されて、新たな1週間を始められるのです。聖霊を常に伴侶とするという約束された祝福を受けることもできます。長い間教会に来ていなかったある婦人は、救い主を身近

に感じたいと強く願うようになりました。しかし、ようやく喜びと平安を感じる事ができたのは、教会に戻り、聖餐にあずかった時でした。

●罪を克服し、主に近づくうえで、聖餐はどのように役立つでしょうか。

深く考えながら聖餐にあずかれるよう、みずからを備える

聖餐を受けるためにみずからを備えることは大切です。聖餐にあずかるには完全な者とならなければならない、という意味ではありません。しかし、正しい思いを持ち、正しい行動を取ろうと最善を尽くす必要があります。そのためには、まず、ふさわしい状態で聖餐を受けられるように罪を悔い改めなくてはなりません。聖餐が配られている間、バプテスマの誓約について深く考え、「モーサヤ書第18章8節から11節に記された聖句を読むのもよいでしょう。救い主の贖罪について熟考するとき、生活を改善し、主に仕えるために改めてみずからを捧げる方法を見いだすことができるでしょう。

毎週日曜日、ある若い母親は子供たちに、救い主について書かれた聖句を読み、子供たちが見習うことのできる特質について話しています。そして、聖餐式の間、イエスについて、また自分たちの生活の中で見習いたいと思う特質について考えるように勧めています。

●もっと深く考えながら聖餐にあずかれるよう、みずからを備えるにはどうしたらよいでしょうか。□

2月に召された専任宣教師

第174期生 13人



後列左から1-6, 前列左から7-13

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 岩間 一	大阪北S/川西第2W	福岡伝道部
2. 小番 篤	仙台M/秋田D/秋田B	大阪伝道部
3. 花島 健一	町田S/湘南W	岡山伝道部
4. 藤竹 幸雄	岡山M/山口D/宇部B	仙台伝道部
5. 青木 義人	高崎S/高崎東W	福岡伝道部
6. DITTRICH RAUL	東京S/ひばりヶ丘W	岡山伝道部
7. 新山 美保	東京S/三鷹W	沖縄伝道部
8. 井上 和美	福岡S/藤崎W	仙台伝道部
9. 熊切 忍	静岡S/浜松W	大阪伝道部
10. 藤竹 順子	岡山M/山口D/宇部B	仙台伝道部
11. 富田 恵子	岡山M/高松D/高松B	福岡伝道部
12. 安田まどか	札幌S/旭川第2W	名古屋伝道部
13. 樋口 順子	福岡S/二日市B	名古屋伝道部

M: 伝道部, S: ステーキ部, D: 地方部, W: ワード部, B: 支部

皆さんの原稿を募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。以下のような証をお送りください。

- ①どのようないきさつで改宗したか。
- ②日々の生活に福音の原則をどのように応用しているか。またそれによってどのような祝福があったか。
- ③教会員として職場でどのような努力をしているか。また、信仰をどのように生かしているか。
- ④友人や周囲の人にどのように福音を伝えているか。
- ⑤伝道に出るに当たりどのように準備し、障害を克服したか。また、専任宣教師になって得た証。
- ⑥神殿参入や家族の記録を作成するに当たってどのような助けや祝福があったか。
- ⑦家庭の夕べの紹介。
- ⑧その他。(家族の証、各地の行事、ワード部/支部特集など)

▶現在ローカルページでは証の著者の生年を記載しておりませんが、編集作業の参考のため、投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名と併せて生年を記入し、写真を同封のうえお送りください。

▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

▶あて先: ☎106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室
電話03(3440)2666
ファクシミリ03(3440)3275

罪と苦しみ

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス

罪に対して非常にいいかげんな姿勢を取る人々がいることを私たちは憂っています。若い人の中には「今は好きなことをします。後でさっさと悔い改めて伝道に出れば(あるいは神殿で結婚すれば)、万事うまく行くのだから」と言う人がいます。

罪に対していいかげんな姿勢を取るのは若い人ばかりではありません。成人の教会員の中にも、罪を罪と知りながら、すぐに悔い改めて「新品同様」になることを計算に入れ、故意に重大な罪を犯す人たちがいることも私たちは知っています。このような人たちは、今のところは罪を犯すことの都合のよさや楽しみを味わい、将来は義の果実を楽しもうというのです。つまり、罪を経験しながら、その結果は回避したいのです。

モルモン経には、そのような人々に

ついて次のように記されています。「『飲み食いをして楽しみ、しかし同時に神をおそれよ。神は小さな罪を犯すことは許したもう。それであるから少々偽を言い、人の言葉につけ込んで欺き、隣人をおとし入れる穴を掘れ。これは少しも悪い事ではない。われらは明日死ぬかも知れないから、すべてこのようなことをしても差支えない。たとえ、われらに罪があると認められても、神はわずかにわれわれを鞭うちたもうだけであって、われらは結局神の王国に救われる』と言う者も多くある。」(II ニーフアイ28：8)

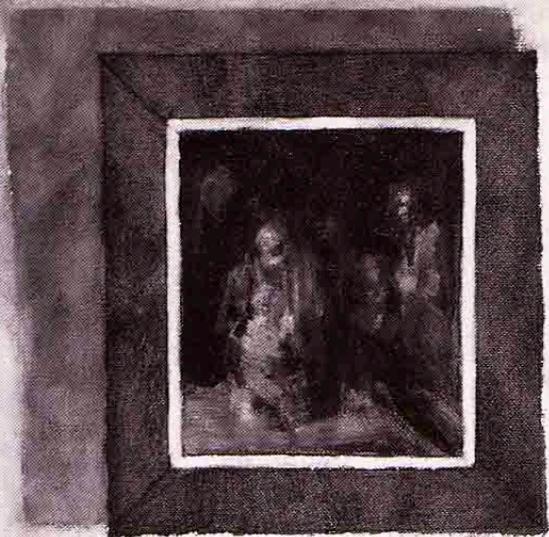
このような態度や考え方は、救い主のそれとは正反対のものです。救い主は、ご自身が罪を犯されなかつたにもかかわらず、贖いの犠牲のために罪のあらゆる苦悩に身をさらされたのです。

..... 進歩を妨げる罪

誤解を最小限にとどめるために、私が意味する罪とはどのようなものか例を挙げてみましょう。最も広い意味では、罪とはすべての誤った行ないと汚れの源を指します。しかしこの定義の下で罪とされる事柄の中には、永遠の生命への道までは妨げない、砂のように小さなものも数多く含まれます。私がここで言う罪とは、長い悔い改めを経ずには取り除くことのできない、道を阻む岩のような深刻な罪のことです。

ある識者は1週間にユタ州の新聞に報道された犯罪のリストを作り、その中から被告人が教会員でないものを消してみたそうです。以下はリストに残った、末日聖徒がかかわった犯罪の種類です。

●詐欺



- 違法な薬物の取り引き
- 暴行
- 誘拐
- 性的虐待
- 売春行為

さらに、教会の宗紀上の記録を見ると、不貞、姦淫、重婚、背教など、めったに報道されることのない深刻な罪も列挙されています。

救い主はニーファイ人に最後の裁きについて語り、その時が来れば主は「魔法を使う者と、姦淫をなす者と、偽りの誓いを立つる者と、俸給につきて雇人を悩〔ます者〕とに対してきびしくまた速に証を立つ」(III ニーファイ24:5)と言われました。

以上は深刻な罪の数例であって、すべてではありません。

基本的原則

話を進める前に、よく知られているいくつかの原則を復習してみましょう。

1. 人生のおもな目的のひとつは、神が子供である私たちを試し、戒めを守るかどうかを見ることである。(アブラハム3:25参照)

2. したがって、この世はアルマの言う「人が悔い改めて神に事えるべき時期」すなわち「試しの時期」である。(アルマ42:4)

3. 神の戒めを破ることは罪である。

4. 最後の裁きの時、私たちは神のみ前に立ち、みずからの行ないによって裁かれる。(アルマ11:41; III ニーファイ26:4; 教義と聖約19:3参照)

5. すべての罪には「罰が定められ」ている。(アルマ42:18; アモス

3:1-2も参照)

6. 神の戒めを破ってこの世で悔い改めない者は「おそろしい罪と恥とを受けて神の法廷に立つ……。」(モルモン経ヤコブ6:9)また、「自分に罪あることと憎むべき行いあることとを覚」る。(モーサヤ3:25)聖句にはその状態を「強烈〔な〕……罪の自覚と苦痛と憂いとは胸に充ちてちょうどこしえに焰をあげる消えぬ火のようである」と表現されている。(モーサヤ2:38)

7. 神の律法を犯した者への正義の要求、つまり聖句にある「永遠の責苦と悩み」(モーサヤ3:25)は、イエス・キリストの贖いによってとりなされ得る。これこそイエス・キリストの福音の真髄である。

以上の基本原則は、故意に重大な罪を犯す放縦な末日聖徒にはどのような意味があるのでしょうか。つまり、今は罪の果実を楽しんでおき、そのうち迅速で比較的苦しみのない悔い改めをして新品同様になるつもりでいる人々の場合です。

モルモン経は、救い主が人を「罪があるままに」救われることはないと言っています。(アルマ11:34, 36, 37; ヒラマン5:10)「悪人は神の子による罪の贖いがなかったと同じような有様であって、ただ一つ死の縄目だけは解かれます。(アルマ11:41)救い主は「悔改めの条件」に従って「悔い改めるならば……その罪から」人を贖うために来られたのです。(ヒラマン5:11, 下線付加)

悔い改めの条件のひとつは主イエス・キリストへの信仰であり、それには贖いの犠牲に対する信仰と信頼も含

まれています。アミュレクもこう教えています。「悔改めを生ずるような信仰を起さない者たちは、正義の法の要求する裁判を十分に受けるのである。それであるから永遠にして偉大な贖いの計画は、ただ悔改めを生ずるような信仰を起す者にだけ与えられる。」(アルマ34:16)

罪のための個人的苦悩

このほかに悔い改めの条件には、罪のための苦悩、言い換えれば罰があります。アルマの言葉を借りれば「罰が定めてなかったならば、人は悔改めをすることができなかった」のです。(アルマ42:16)すなわち、罪のあるところには苦悩がなければなりません。

すべての聖句の中でこの原則を最も端的に示しているのは、主が1830年3月に予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示でしょう。(教義と聖約第19章参照)ここで主は、人がすべてその行ないによって裁かれる「大いなる審判の日」(3節)に私たちの注意を喚起していらっしゃいます。続けて主は、罪の結果による「永劫」にして「永遠」の罰とは決して終わりのない罰ではないと説明しておいでになります。永劫であり永遠であられる神の罰を意味しているのです。(10-12節参照)

これらのことを踏まえたうえで、世の救い主は私たちに、悔い改めて戒めを守れと命じていらっしゃるのです。「悔い改めよ。……汝の痛苦甚しからざらんがために悔い改めよ。すなわちその痛苦の如何に甚しきかを汝知らず、その如何に強烈なるかを汝知らず、また如何に堪え難きかを汝知らざるな

アルマは、3日3晩「すでに犯した多くの罪を思い起して非常に良心に責められ」た。
そしてイエス・キリストに救いを請い求めた。
(アルマ36：5-23参照)

り。

見よ、われは神なるに、人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために、すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。

されど、人もし悔い改めずば誠とわれと同じ苦しみを受けざるべからず。

その苦しむたるや、われ神、すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながらを苦しめ、すなわちこの苦きさかずきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。

然はあれども、父なる神は讀むべきかな。さればわれはこの苦しみをなめ、人の子らの為に準備を為し終りたり。

これを以て、再びわれ汝に命ず、われ全能の力を以て汝を挫かざらんために汝悔い改めよ。なおまた、われ汝に今言いたる懲しめを与えざらんがために汝その罪を告白せよ。」(15-20節)

重荷を負う

救い主のこのような明解な言葉に思いはせるなら、故意に罪を犯す人の「心」は、実に不可思議であるとわかります。彼らは、いつかは速やかに、しかもたやすく悔い改めて、神の僕としての生活を続け、人々に「悔い改めてキリストのみもとに來なさい」と説くつもりでいるのです。その不自然さをひとつの話を通して説明しましょう。

ある大家族の母親がいます。忍耐の域を超えるほどの負担を負っています。起きている時間は絶え間なく大人数の家族の必要を満たすために働いています。食事、繕い物、送り迎え、助言、

病人の世話、悲しんでいる子供を慰めること、そのほか母親として考えられるあらゆる世話をしていました。あらん限りの力を振り絞って子供の必要を満たすことに献身していたのです。

この母親は子供のためにその人生を捧げています。子供たちは、母親がどんな仕事を与えられても全力を尽くすことを知っています。子供たちのほと



ALMA THE YOUNGER STRICKEN DUMB, BY JERRY HARSTON

んどは思いやりがあり、彼女の負担を軽くするために精いっぱいのことをしています。しかし、中には母親が喜んで世話をしてくれるのを知ったうえで、疲れた母親に一層仕事を無遠慮に押しつける子供もいます。そのような子供たちの態度はこうです。「気にすることないよ。母さんがやってくれるさ。そう言っていたもの。母さんにしてもらおうよ。ほくらは楽しんでいればい

いのさ。」

おわかりのように、この話では、苦悩という重荷をほかの人に負わせることを期待して罪を犯す人々を心ない子供たちにたとえています。そして、その重荷を負うのは救い主ご自身なのです。

苦勞なしには歩めない道

不注意に罪を犯す人には贖いの効果は及ばないのでしょうか。もちろんそうではありません。私が言いたいのは、罪と苦しみの相対関係についてです。故意に罪を犯しながら苦しみはすべてほかのお方に負わせようとしている人々、つまり、罪は全部自分のものだけれど苦しみは全部救い主のものと考えている人々にはこの関係が理解できないでしょう。悔い改めとは、そういう人たちが期待するようなものではないからです。悔い改めは永遠の目的地に通じる確かな道であり、何の苦勞もせずに歩むことなどできないのです。

ふたつの聖句を思い出してみましょう。

(1)「罰が定めてなかったならば、人は悔改めをすることができなかった。」(アルマ42：16)(2)救い主はこうおっしゃっています。「人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために、すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。されど、人もし悔い改めずば誠とわれと同じ苦しみを受けざるべからず。」(教義と聖約19：16-17)

これは明らかに、悔い改めない罪人は自分の罪のゆえに苦しまなければならないという意味です。それでは、悔

い改める人は救い主がすべての罰を担われるためにまったく苦しむ必要がないということなのでしょうか。それはあり得ません。もしそうだとすると救い主のほかの教えと矛盾してしまうからです。この聖句が意味するところは、悔い改める者は救い主がその罪のために受けるのと「同等の」苦しみを味わうことがないということです。悔い改める罪人はいくらかの苦しみは味わうものの、その人自身の悔い改めと主の贖いによって、救い主が経験された永遠の苦しき、「強烈な」苦悩をすべて味わうことはないのです。

悔い改めと赦しについて大変わかりやすく教えたスペンサー・W・キンボール大管長は、こう言っています。個人の苦悩は「悔い改めの非常に重要な部分です。罪のために強烈な苦しみを経験するまでは、その人は悔い改めのための一歩を始めたとは言えません。……苦悩のないところに悔い改めはあり得ないからです。」（「スペンサー・W・キンボールの教え」pp. 88, 99）

救い主は、贖いの犠牲を払ったのは、「真にへりくだった心と悔いる精神のあるあらゆる人たちのために律法の要求する所に応じ」るためであると言われた時、この原則を教えようとしていらっしやったのです。（II ニーファイ 2：7）真にへりくだる心と悔いる精神でキリストのみもとに来る罪人は、悔い改めて、罪の痛みと苦しみの過程を歩んできた人です。そのような人は「真心から悔い改める者のほかには誰も救われることができない」というアルマの言葉の意味をよく知っています。（アルマ42：24）

神のみところにそった悲しみ

ブルース・C・ヘイフェンは、ある人々は簡単な告白や赦しを請う言葉だけでじゅうぶんだと考え、（悔い改めへの）「近道」と安易な答えを探している、と書いています。（「真にへりくだった心」p. 150）キンボール大管長も次のように教えています。「多くの人は悔い改めたから赦されて当然だと思っても、実際は単に不運な出来事について悲しみや後悔の思いを表明しただけだということが往々にしてあります。」（「スペンサー・W・キンボールの教え」p. 87）個人的苦悩を含む「神のみところにそった悲しみ」と、罪が露見したことへの浅く比較的苦痛のない悲しみ、あるいは、モルモンの言うような見当違いの悲しみ、つまり「主がかれらのいつでも罪悪を犯して楽しめることを許したまわらないのを悲しむのであって、神の御前から断ち切られた者の悲しみ」（モルモン2：13）の間には大きな隔りがあるのです。

アルマの息子アルマは、浅く苦痛の伴わない悲しみでは悔い改めにふじゅうぶんであることをよく承知していました。モルモン経に詳述されているアルマの経験には、悔い改めの過程が罪に対する個人的な苦悩に満ちているという事実が、聖典上最もよく表わされています。

悪之道から立ち戻った後、アルマはこう語っています。「私は……底なしの暗い穴の中に居」て（モーサヤ27：29）「自分が犯した一切の罪のために非常に良心のとがめを受け、永遠の責苦を感じた。

私は本当に自分のあらゆる罪と悪事

とを思い起して、そのために地獄の苦痛を感じ」た。（アルマ36：12-13）

また、「自分の神の前に出なくてはならぬと思うだけで言いようのない恐怖で身も霊も引き裂けるように苦しんだ」（14節）、そして「すでに犯した多くの罪を思い起して非常に良心が責められ」た（17節）とも語っています。「身も霊も劇烈な苦痛を感じ〔た〕」とアルマが表現した、3日3晩の経験の後、彼は主イエス・キリストに憐れみを請い求めました。こうして「罪の赦し」を受けることができたのです。（アルマ38：8）

私たち自身の個人的な経験からもわかるように、悔い改めの過程に当人の苦しみが伴わなければならないことは紛れもない事実です。しかも、罪の重大さに応じてその苦しきは長く厳しくなるのです。

罪を犯して教会から破門されたものの悔い改めたある兄弟は、その時の心情として、「涙に明け暮れ」「数知れぬ山々の下に埋もれてしまいたいと願った」こと、「羞恥心に押しつぶされ」「暗黒の中」にあったこと、そして「永遠に続くと思われるような……苦悩」を感じたことについて語っています。

苦悩の必要性

重大な罪を悔い改めるうえで、なぜ苦しむことが必要なのでしょう。悔い改めの結果について私たちは、単に罪から清められることであると考えがちです。しかし、それは不完全な見方です。罪を犯す人は、風にたやすくたわむ木のようなものです。風雨が強い日には木は地面に向かって深くたわみ、

「われは神なるに、人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために、
すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。
されど、人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。」
(教義と聖約19：16-17)

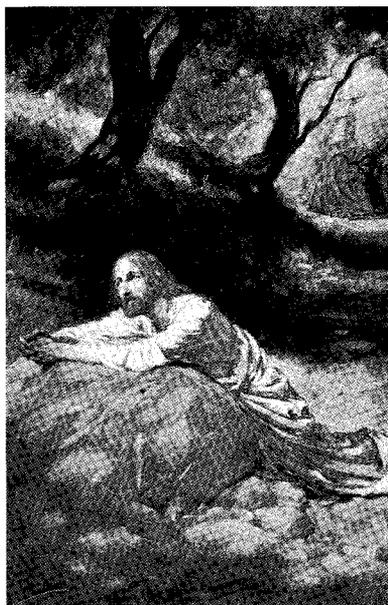
その葉は泥で汚れてしまいます。この泥を罪だとしましょう。私たちが単に葉をきれいにすることだけに焦点を当てるならば、たわんで葉を汚す木の弱さをそのままにしてしまうかもしれません。同様に、罪に汚れたことを悲しむだけの人、次に強い風が吹けば再び罪を犯すでしょう。木そのものが強められなければ、葉が繰り返して汚れることは避けられないのです。

人が正しい過程を経て聖典で言う「真にへりくだる心と悔いる精神」という状態に至ったとき、救い主は罪から清める以上のことをしてくださいませ。新たな強さをくださるのです。この霊性の強化は、天父のみもとに戻るという、清めの本来の目的を実現するために欠かせません。天父のみもとへ行くにふさわしくなるためには、清いだけではふじゅうぶんなのです。罪を犯した道徳的に弱い人間から、神のみもとに住まえる霊的な成長度を備えた強い人間に変わる必要があります。聖典にあるように、「主キリストの身代りの贖罪に由って聖徒とな」らなければならぬのです。(モーサヤ3：19)これが、罪を悔い改めた人は「その罪を捨つべければ」(教義と聖約58：43)という聖句の意味です。罪を捨てることは、その罪を繰り返さないという決心以上のものです。それは個人が根本的に変わることを意味しています。

大きな改心

ベンジャミン王とアルマはともに大きな改心について語っています。ベンジャミン王の民は、大きな改心は「悪を行う性質をなくして常に善を行う望

み」(モーサヤ5：2)を与えると表現しています。アルマは昔の民が「目を覚まして神を信じた」、「生けるまことの神に頼り、終りまでその行いは忠実であった」(アルマ5：7、13)という言葉で改心の状態を言い表わしました。そして人々に、「信仰の目で未来を見通し」、「現世でわが身のした行いに応じて裁判を受けるために神の御前に立



CHRIST IN GETHSEMANE, BY WILLIAM HENRY MARGETSON

つ」(15節)時を考へてみるようにチャレンジしています。そのような改心をした人は、神とともに住むに足る強さと水準を身につけた人です。それが私たちの言う救われるということなのです。

警告に耳を傾ける

悔い改めは楽であると、誤った意見を持つ末日聖徒の中には、人は罪を犯

して悔い改めた方がよいのだと主張する人もいます。そういう人は、「罪を多少経験するのはよいことだ。そうすれば人の心がわかり、よりよい助言を与えることができる。悔い改めるのはいつでもできるのだから」と言います。

兄弟姉妹の皆さんに心からお願いします。若い方も年配の方も、どうか罪を犯さないでください。故意に罪を犯しても簡単に悔い改められると思ったり、人は罪を犯して悔い改めるという段階を踏んだ方がよいと考えるのは、悪魔の教える邪悪な偽りにすぎません。ある方法で体に打撃を加えると骨折に至ることや、ある種の化学薬品を混ぜ合わせると爆発してやけどすることを実際に経験する必要があると本気で主張する人がいるでしょうか。そのようなけがで傷を残すことが本当によいことなのでしょうか。もちろん、そのようなけがが体に及ぼす影響をよく知っている専門家の警告に従った方がよいのは明らかです。

このような事柄の場合に人の経験から学べるのと同様に、私たちは神の戒めに含まれる警告からも大切なことを学べます。罪が自分の霊に傷を負わせ、永遠の幸福を危くするのを知るために、わざわざ重大な罪を犯してその影響を個人的に経験する必要はないのです。

何年も前、息子のひとりが私に、アルコール類やたばこがどんなものか経験してみるのがどうしていけないのかと尋ねたことがあります。息子は知恵の言葉を知っていましたが、アルコール類やたばこの健康への悪影響も知っていましたが、なぜ自分でちょっとそれを試してみてもいけないのかと尋ね

たのです。私は、そんなに自分で試してみたいなら、納屋に行ってちょっと肥料を食べてみればいいと答えました。息子は恐怖に後ずさりして、「気持ち悪いこと言わないでよ」と言いました。

私は「そう思ってくれるのはうれしいよ。だけど、実際どんな味がするか、ちょっと試してみたらどうだい。ある物が自分のためにならないとわかっていても試してみたいのなら、その考え方をほかに応用してみても悪くはないだろう」と言いました。「自分で試してみる」ことの愚かさは、この説明で16歳の息子にじゅうぶん伝わったようでした。

明日に重荷を負わせない

若い時には、まるで明日という日がないように振る舞うことがときどきあります。若い時には、人は皆成長し、結婚して子供を育てる日が来るのを忘れがちです。さらに、これは忘れずに心に留めてほしい重要な事実ですが、私たちが10代の時に過ちや罪を犯すのを見た人や、それらにかかわった人たちの何人かとは大人になってからも親交を持ち続けていくということです。

若い男性の皆さん、あなたが今デートをしている女性は数年後にはあなたと結婚しているかもしれませんが、たぶんそうはならないでしょう。彼女があなたの将来の監督やステーキ部長の奥さんとなる可能性もあります。若い女性の皆さん、あなたが今デートしている男性はあなたの夫になるかもしれませんが、そうでない可能性の方が強いのです。将来彼があなたの親友や姉、妹と結婚する可能性もあります。もし

かすると、あなたの副監督や職場の部下になるかもしれません。ですから、あなたがたの明日が愚かな、あるいは恥ずかしい思い出という重荷を負わされることのないよう、きょうを心して生きなければなりません。

「罪を悔い改めたる者」

これまでの私の話の大半は、悔い改めを簡単に思っている人々に向けたものです。そういう人々とは正反対に、悔い改めはむずかしすぎると考える人々もいます。彼らはやさしく良心的なあまりに、自分の生活のすべてに罪を認め、決して清められることはない、と絶望してしまいます。罪に対してだらしのない人々に対して生活を改めるようにとあからさまに叫ぶ私たちの声が、このような良心的な人々には壊滅的な打撃となって、彼らを絶望へと追いやってしまうことがあるのです。これはよくある問題です。私たちが話をするとき、聴衆には実にさまざまな人がいます。そのため、ある人々には手ぬるすぎる教義も、ほかの人々には厳しすぎるという結果を常に生んでしまうのです。

最後に、希望に満ちたメッセージでこの話を閉じましょう。それはどのような人にも当てはまりますが、悔い改めをむずかしすぎると考える人々には特に必要なメッセージです。

「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」（ローマ3：23）いるので、悔い改めはすべての人に必要な、継続的に行なうべき過程です。しかし、悔い改めは可能なことであり、赦しは確かに訪れます。

スペンサー・W・キンボール長老はこう言っています。「時々……悔い改めようとしている人は自分が犯した罪を振り返って見たとき、その醜さ、胸がむかつくほどのいやらしさに意気消沈してしまい、『主は私を赦して下さるだろうか』とか、『私は自分自身を赦せるだろうか』という疑問に駆られることがある。しかし、罪を犯した人が深く失望し、絶望のどん底に達し、自分の無力にあえぎながらもただ信仰を抱いて神の慈悲を求めて祈ると、静かで、細く、それでいて全身を刺し貫くような声が聞こえてくる。『子よ、あなたの罪はゆるされた。』（「赦しの奇跡」p. 354）

そのように赦されたとき、「御子（イエス・キリスト）の功德によってわれらから良心のとがめを除きたもう」（アルマ24：10）という神の約束がなんとありがたく感じられることでしょう。また、「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ」（イザヤ1：18）という約束がなんと慰めを与えてくれることでしょう。

「およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし」（教義と聖約58：42。エレミヤ31：34とヘブル8：12も参照）という神ご自身の約束はなんと栄光に満ちていることでしょう。

以上は確かに真実です。イエス・キリストがすべてを可能にし、悔い改めの条件を定められ、ご自身の贖いの犠牲を通して私たちに全き者となる道を備えられたことを証いたします。□

歌 詞

ページ・マリオット

あのころの私は、重症の「自信喪失症」とでも呼べそうな状態にありました。自尊心を失い、「自分なんかどうなったっていい」という気持ちでした。

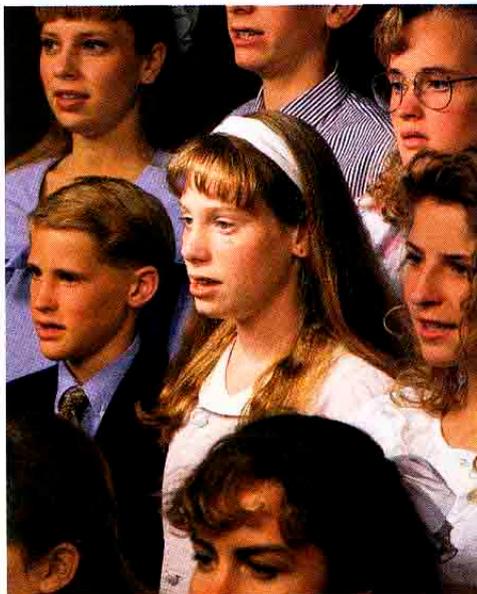
両親は何とか私を励まそうとしますが、何を勧められても口論になるだけでした。私に話しかけることは、まるではれものに触るようなものでした。「いいからほっといてよ！」心の中ではそれほど怒っていないのに、激しい口調でどなり散らしたものです。両親がそんな私を心配して、何日も眠れぬ夜を過ごしていることも知っていました。

ある日曜日の夕方、母が父と3人でステーキ部のファイヤサイドに行こうと、しきりに誘いました。私は「あんなばかげたファイヤサイドなんて、行きたくないわ」と答えました。私はいつも言いがかりをつけては、自分の苦痛を他人のせいにしようとしていたのです。

「そんなふうにするもんじゃありません、ページ。もちろん行くわよね」と、母は言い返しました。

私たちが礼拝堂に入っていった時、何人かの友達がすでに席に着いているのがわかりました。普通の長いすではなく壇上の席にです。私は気づかれぬようにして長いすに座りました。

すると青少年の指導者が私の肩をたたいて、「ページ、一緒に歌わない？」と誘いました。



私は「すみません、デインズ姉妹。私、一度も練習しなかったし、何を歌うかも知らないし」と断りました。でも姉妹は、「だいじょうぶだから」と言いながら私を席から立たせ、「楽しいわよ」と言うのです。

曲目もわからないうちに、ステーキ部長が「ステーキ部の頼もしい青少年の皆さんによる歌の発表です」と紹介してしまいました。頭の中は大混乱です。

ピアニストが鍵盤に手を置き、旋律が礼拝堂に流れ始めます。歌

い始めた時、私の目から涙がゆっくりほほを伝わりました。その歌の歌詞を、私は知っていたのです。全部、知っていました。

「神の子です、わたしやあなた……」口をついて出る歌詞を歌いながら、最前列でほほえんでいる両親を見ました。父母のまなざしは「ページ、おまえを愛しているよ」と、語りかけているようでした。

すると突然、自分はひとりではないのだと気づきました。その瞬間、自分が本当に神の子供であり、神が私をやさしくすばらしい両親の元に送ってくださったことを悟ったのです。

その歌の歌詞は、それまで何度も口にしていたのですが、その時初めて、私の心に響いたのでした。□



ジョセフ・スミス記念館

聖徒たちが、1841年1月にイリノイ州にノーヴー市を建設した時、主はその僕たちにこのように勧告されました。「わが名のために〔家を〕建つべし。……その家の名をノーヴー館と名づけ、その建物を「快き住家」、すなわち疲れた旅人が「シオンの光栄を静に考え……、シオンの胸壁上の見張の如き者としてわが基所に置きたる人より助言を聞」ける場所とするように勧告されました。(教義と聖約124：22，60-61)

この啓示にこたえて、れんがとモルタル造りの家の建設が始まりましたが、迫害が激しくなったため、聖徒たちはノーヴー神殿の方の完成に主力を注ぎました。その結果、ノーヴー館は未完成のまま放棄されることになりました。しかし、ノーヴー館を建てる考えは忘れ去られませんでした。

100年以上経た今日、その考えはソルトレークシティの中心部に建つ、きらきらと白く輝く建物となって実現しました。76年前に建てられたこの建物は、従来はホテル・ユタとして使われていましたが、訪問者をもてな

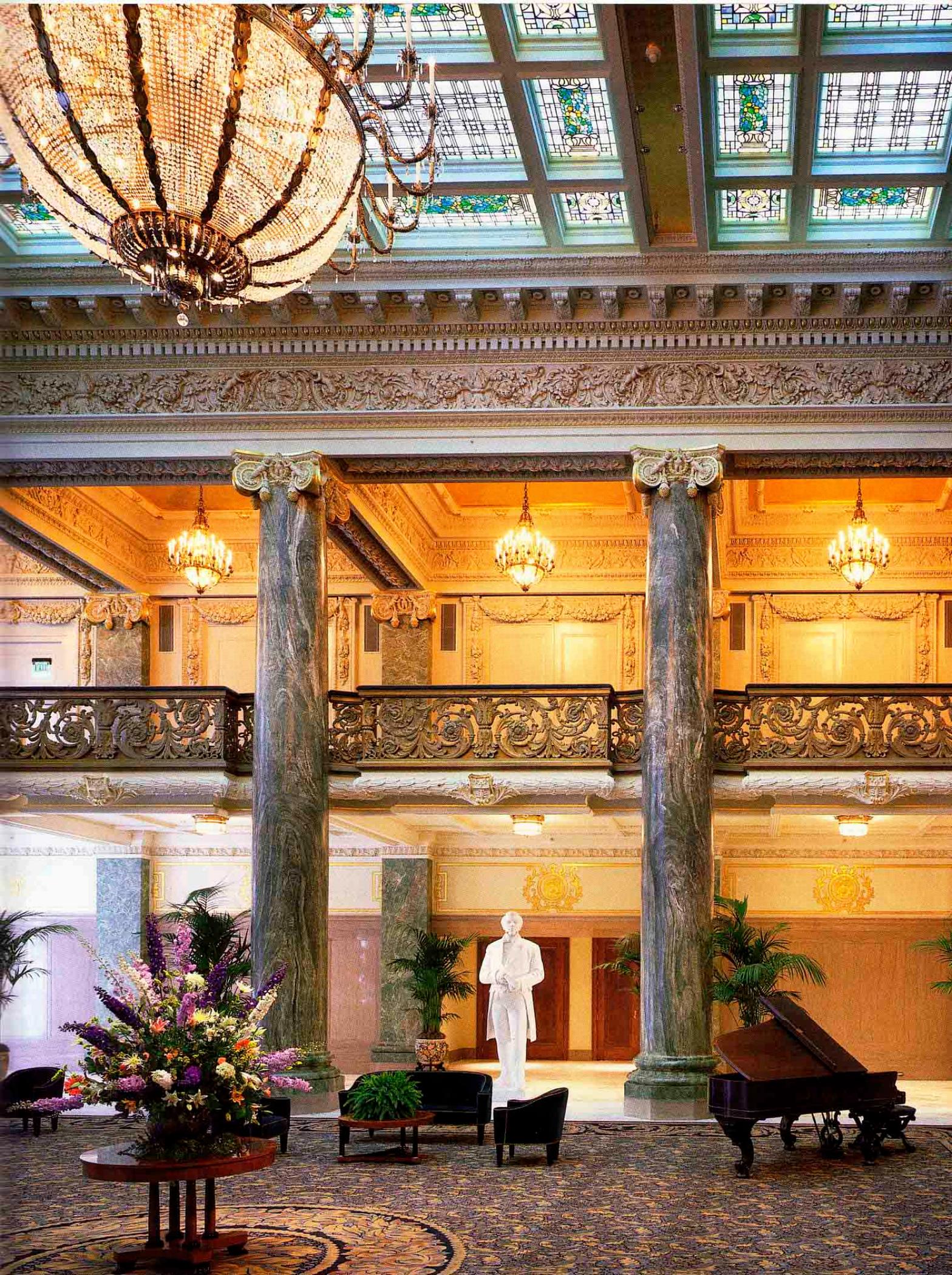
したり、教育的な機会を提供したりする場所として、教会の使用のために改造されたのです。そこでは、訪問者と聖徒たちがともに「シオンの光栄を静に考え……、シオンの胸壁上の見張の如き者としてわが基所に置きたる人より助言を聞」いています。

予言者ジョセフ・スミスへの尊敬と愛から、この建物はジョセフ・スミス記念館と新たに名付けられ、奉獻されました。

その名前は、ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長が靈感を受けて付けたものです。ある晩、眠れずにいたヒンクレー副管長は、神殿を見渡せる窓から外を眺めていて、ソルトレークシティにはジョセフ・スミスを記念

上——ソルトレーク神殿の向かい側に建つ、白く輝くジョセフ・スミス記念館。

右——美しく修復されたロビーで、来訪者を歓迎するジョセフ・スミスの白い大理石像。





上—左から、神殿を見渡せる10階のレストラン、
大作映画「レガシー」(「われらの遺産」)を上映している500席を備えた劇場、
家族歴史センター、系図資料を提供するために
130台以上のコンピューター端末機が設置されている。
右—記念館には、ソルトレークシティのいくつかのワード部が使用する礼拝堂もある。

する建物がひとつもないことに気づきました。

ヒンクレ副管長はこのように述べています。「『ジョセフ・スミス記念館』という名前が頭に浮かびました。」そして、その名前を付けることを大管長会に、次に十二使徒定員会に提議し、皆の賛成を得たのです。(「チャーチニュース」1993年7月3日付, p.3 参照)

10階建てのこの記念館を訪れる人は、まず、建てられた当初の壮麗さが大部分そのまま残っている壮麗なロビーに入ります。現在ノーヴーの部屋と呼ばれる部屋の入り口近くには、予言者ジョセフ・スミスの大理石像が立っています。約3メートルもあるこの像には圧倒されますが、予言者の顔に浮かぶやさしいほほえみは温かいあいさつで迎えてくれます。

中2階へ上ると、ロビーを見渡すことができます。中2階の部屋は、礼拝堂、扶助協会の部屋、教室、事務所、図書室、小さな台所に改造されています。これらの施設は、ソルトレークシティのいくつかのワード部が使用しています。

地階には大きな家族歴史センターがあります。系図探求に興味を持つ訪問者の便宜を図るために装備された130台以上のコンピューター端末機は特筆すべきでしょう。さらに、4階にも60台のコンピューター端末機があ

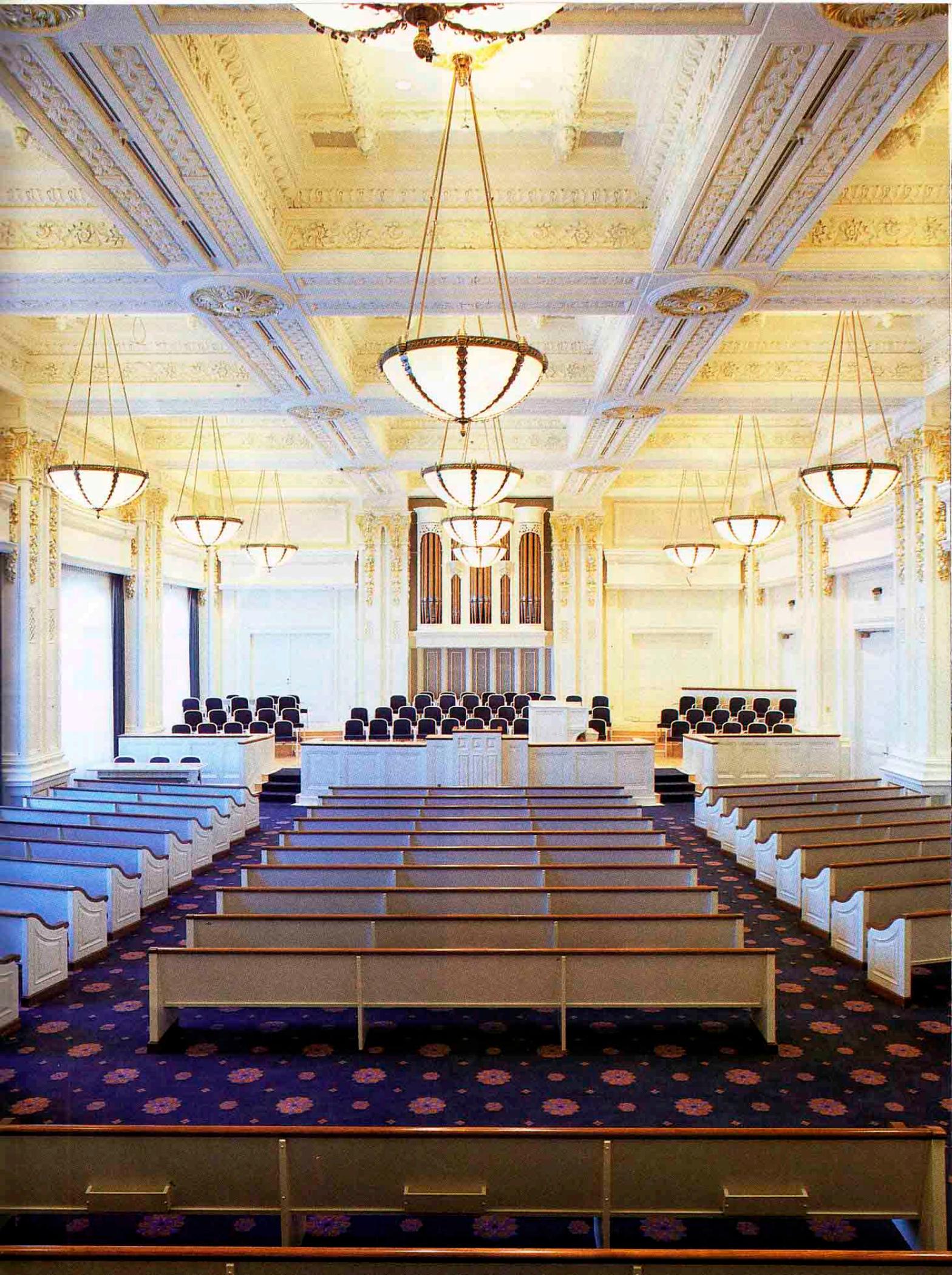
ります。

ロビーから何段か階段を上ると、落ち着いた雰囲気のある劇場があり、初期の末日聖徒の開拓者たちの物語を描いた、感動的な新作映画「レガシー」(「われらの遺産」)が上映されています。

10階に上ると、ふたつの屋上レストランから、ソルトレーク渓谷の息を飲むような眺望を満喫することができます。また、この建物には教会本部のいくつかの部署、配送センター、ピーハイブ衣料センターがあります。

ヒンクレ副管長はこのように述べています。「この建物は、現在地球上に広がっているこの偉大なみ業を、神のみ手の器となってもたらした神の予言者への追憶を、人々の心の中にとどめ、より美しく輝かせることでしょう。このことに対する私の証^{あかし}をお伝えしたいと思います。」(「チャーチニュース」1993年7月3日付, p.4)

トーマス・S・モンソン副管長は、ジョセフ・スミスへの感謝を込めて、このように語っています。「何千人もの人々が……この建物の中で交わる機会を持ち、……それらの人々が……予言者ジョセフの名をたたえる何十万、あるいはおそらく何百万もの人々の中に加えられると思うと、喜ばしいかぎりです。」(「エンサイン」1993年9月号, p.34)□



愛と福音で 編み上げる

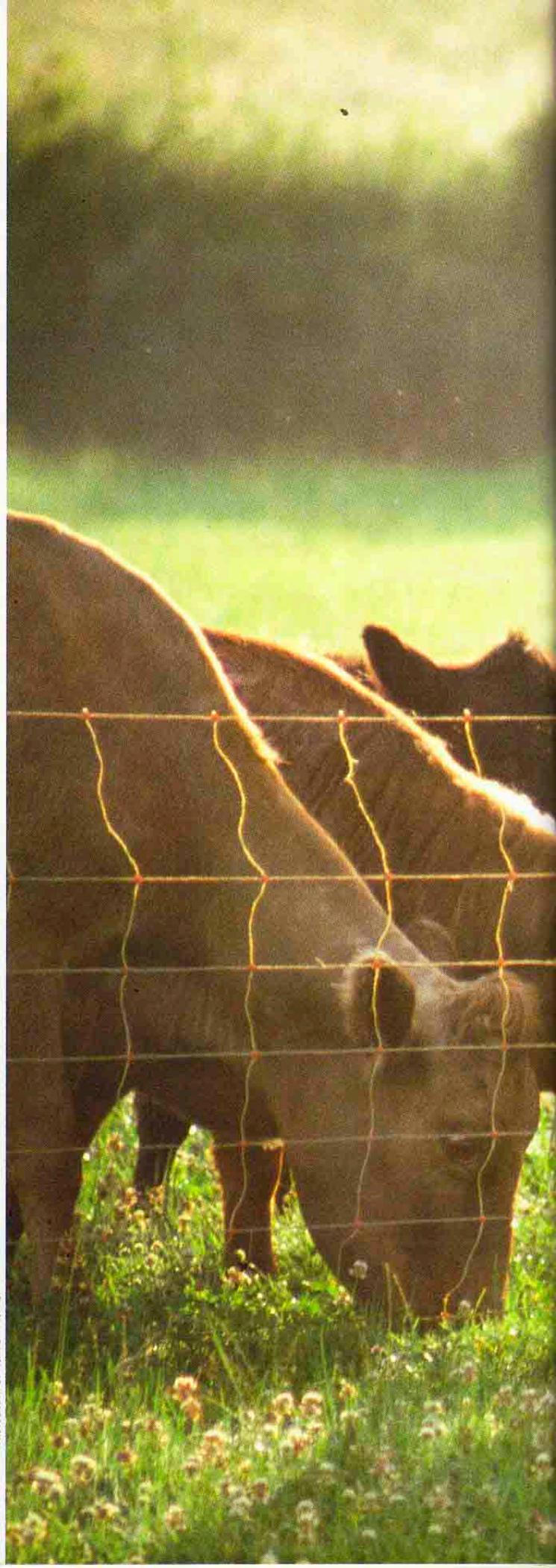


リチャード・M・ロムニー

かつてイギリスのほとんどの地域で農業が営まれていたころ、毎年秋の収穫を祝うために麦わら細工の人形を作る風習がありました。若者たちは麦わらを編んで愛する人々への贈り物としたものです。この人形は、一年の労働が豊かな収穫で報われたことに対する神への感謝の象徴でもありました。

イギリス、サマーセットのイルミンスター近くにある小さな町、ブロードウェイ。ここに住む16歳のジェニー・フリンの毎日は朝早くから始まります。学校へ行く前の少なくとも1時間は、家畜にえさをやったり、牛の乳を搾ったり、骨の折れる仕事が山ほどあるからです。

でも、つらいことばかりではありません。朝のすがすがしい空気を吸い込むと、ジェニーは生まれ変わったような気持ちになります。朝もやを追い払ってくれる太陽は暖かく、その色は黄色というより黄褐色です。畑は湿っていますが、露が降りてどの草木もまるで水晶に包まれているかのように見えます。動物たちはすでに目を覚



PHOTOGRAPH BY RICHARD M. ROMNEY







忙しい毎日、互いに協力し合えば、数多くのことをやり遂げられる。
フリン家の人々は、友達と一緒にスクールバスを待っているときも、
両親とともに時間を過ごすときも、いつも笑顔でいっぱいの日々を送っている。

まし、構ってもらおうと騒ぎ立てます。生きていること、それだけで幸せそうです。

口に出しては言いませんが、神への感謝の祈りを捧げながら生きていくのがここでの生活だ、とジェニーは思っています。そうです、なすべき仕事はたくさんありますが、仕事も人生の大切な一部であり、人生は好ましいものなのです。

ひとりだけでなく

フリン家の中で早起きするのはジェニーだけではありません。朝の6時15分、ジェニーの兄ピーター(17歳)はすでに家を出ています。新聞配達のため、そのころには自転車のペダルをこいで町を走り回っているのです。この町の新聞はほとんど彼が配達しています。ピーターは、少なくとも出かける前までは、早起きがあまり好きではありません。そんな彼も町を半分回ったぐらいになると朝の喜びを感じます。その日1日が、素晴らしい機会に恵まれて、数多くのことを達成できる日になるという予感がするのです。

そんな期待を抱きながら、ピーターはその日の仕事を熱心に果たしていきます。朝刊の「デーリー・テレグラフ」を1部ずつ折り畳んでドアの透き間に差し入れていると、卵売りから果物摘みまで、伝道資金をためるためにこれまでやってきた仕事の一つ一つ思い出されます。ピーターは、伝道できる日がどのように近づいて来るのだろう、といつも考えます。彼も口に出しては言ませ

んが、働くことを学べてよかったと思っています。このような経験は、将来、宣教師として奉仕するときに役立つことでしょう。1日の始めに何かをやり遂げるのは気持ちのいいものです。

愛することを学ぶ

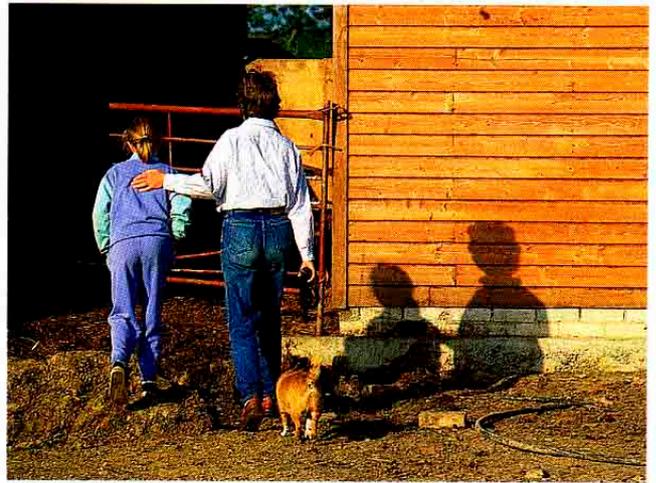
ピーターとジェニーは、ブルース・フリンとマーガレット・フリン夫妻の長男と長女です。ほかにも、リンズイー(14歳)、ニール(12歳)、エリザベス(皆はりズィーと呼んでいます。9歳)、そしてレイチェル(5歳)がいます。6エーカーの農場に住むフリン家を訪問すればジェニーとピーターに加えて皆で8人、働くことの意義をよく知っている人々に会えます。彼らを訪問すれば、家族を成功に導く多くの鍵を知ることもできるでしょう。

「ここに引っ越して来たのは、私と妻の希望だけでなく、子供たちのことも考えてのことです」と農場の維持に加え、教会の教育部で地区指導主事も務めるフリン兄弟は語っています。「仕事上、出張することが多いので、町に住んだ方がいいと言われるかもしれませんが。」

フリン姉妹は次のように付け加えます。「ただ、もしもここを離れるとなると、私たちの生活の質が低下してしまいます。今ほど家畜を飼えなくなりますし、自立するための技術もあまり学べなくなります。仕事の愛し方もここほどには学べなくなるでしょう。」

仕事の愛し方とはどのようなことでしょうか。

「我が家では、労働の原則を信じています。」フリン兄



フリン家のモットーは実に簡潔である。新聞配達であれ、農場での仕事であれ、「労働は貴い」ということだ。右ページ、左から——ニール(12歳)、リンズィー(14歳)、ブルース(お父さん)、マーガレット(お母さん)、リズィー(9歳)、ピーター(17歳)、レイチェル(5歳)、ジェニー(16歳)。

弟はこのように説明してくれました。「私たちは、労働が靈的な原則であることを信じています。結果を得るだけが労働ではありません。毎日の仕事を現実に行なっていくというその行為に意義があるのです。働くこと、それ自体が私たちの益となるのです。」

子供たちもそれを納得しているのでしょうか。

「私たちがしなければならぬ仕事のことで不平を漏らすと、母はこう言います。『いいわよ。じゃあ、町に引っ越ししましょうか。』兄弟の中で、『そうしよう』と答えた子はこれまでひとりもいないんです」とリンズィー。

「あらゆることにはよい面と悪い面があります。でも、ぼくはどちらかと言えばここが気に入っています」とピーターも語っています。

ともに働く

これまでの話をずっと聞いてきて、喜んで働くフリン家の人たちは皆完全だと思えるかもしれません。実は、彼らもいたずらをしたり、口げんかをしたり、またときには涙を流す、どこにでもいるような普通の家族なのです。ただ、彼らは家族で協力して働くことも学んできたのです。

「一緒にいることから私たちは何を得ているのかしら」とジェニーが自問します。「第一に、忍耐ね。」

ジェニーは永遠に家族とともにいることについて考えることがあるのでしょうか。

「家族が煩わしくないときには考えますね」と冗談ぽ

く答えてくれました。

ジェニーに限らず、フリン家の人々は皆よく笑います。互いの考えをぶつけ合うのは好きですが、愛の精神でなくてはならないことをだれもがよくわきまえているので、傷つくことはありません。

「皆それぞれに個性は違いますが、お互いにうまく折り合えるようになりました。それに、否定的なことをひとつ言ったら、肯定的なことをふたつ言うようにと、父から教えられているんです」とリンズィーは語ります。

チャレンジに直面する

ほかにどのようなチャレンジがあるのでしょうか。「いちばん大きなチャレンジのひとつ、それは時間を管理することです」とジェニーは答えます。「1日に2度、家畜の世話をしなければなりません。毎日、朝と夕方の1時間をそのために費やします。その間に学校があります。また、宿題があるので、毎晩2時間が必要です。それにセミナーが家庭学習なので、そのための時間も作らなくてはなりません。」

遠く離れているため、教会の活動に参加するのも一苦労です。「ぼくたちはステーキ部センターから50マイル(約80キロ)離れた所に住んでいるんです。」ピーターが説明してくれました。「往復の交通にかなり時間がかかりますが、会員が皆、車を持っているわけではありません。ぼくたちの定員会には、ぼくも含めて会員がわずかふたりだけです。それにそのもうひとりの会員は、40マ



イル(約64キロ)離れた所に住んでいるのです。彼が教会に来たいと感じているかどうか知りたくて皆で働きかけているのですが、問題がいろいろとあるんです。たとえば、離れているのを理由に、両親が教会まで連れて行きたがらないことがあります。距離が大きな障害になっているのです。」

また、末日聖徒だからといって学校で誘惑に取り囲まれないわけではありません。12歳になるニールのクラスで行なわれた調査によると、アルコールを口にしたことのない生徒はたったふたりだけだったそうです。

問題を克服する方法

では何がこのような問題の埋め合わせとなっているのでしょうか。

「教会ですばらしいレッスンを受けられることかしら」とジェニーが話してくれました。「セミナーでもよいレッスンが受けられます。それに家ではすてきな家庭の夕べを開いています。金曜日にはミュージカルがありますし、日曜日には教会の子供たちと会ってお互いに強め合うことができます。」そしてもちろん、聖典や祈り、それに家族の支えがあるので。

「もし本当に大きな問題があったら、家族に相談でき

るのを知っています」とリンズイーは言います。「家族は私にとって最良の友と言えるかもしれません。彼らに相談できなければ、だれを頼りにしたらいいでしょう。」

そのよい例がジェニーの示してくれた模範です。期末試験中で勉強しなければならなかった時でさえ、ジェニーは学校まで、レイチェルを歩いて迎えに行ったのです。「その日は父も母も帰宅が遅かったので、だれも迎えに行かなかったら、レイチェルのことだからきっと気が動転するに違いないと思ったんです。」ジェニーは当たり前のように話してくれました。

これも家族としての姿のひとつなのです。このようなことをフリン家の人々は毎日学んでいるのです。

フリン家の居間に足を踏み入ると、壁に手作りの人形が飾ってあるのが目に留まるはずですが、この人形は妻わらで作られています。「わらは柔らかいうちに編むんです。古くなると折れやすくなって、曲がりませんから」とフリン姉妹は説明してくれました。

「私たちが家族として実践していることと同じです。」こうフリン姉妹は言います。「私たちは福音に基づいた生活をし、家族の愛について学んでいます。そして子供たちは、自分たちの人生に福音と家族の愛を編み込んでいくのです。」□

手と心の目で見て

ケオン・テッド・ヌーアン

フリッツ・ボルパークは、自分の目で見えないものを、手で見ることができます。83歳になるボルパーク兄弟は、27年ほど前に視力を失いました。しかし、目が見えなくなったからといって、彼は大工の仕事をやめたり、木彫の技術を磨くのをやめたりすることはありませんでした。

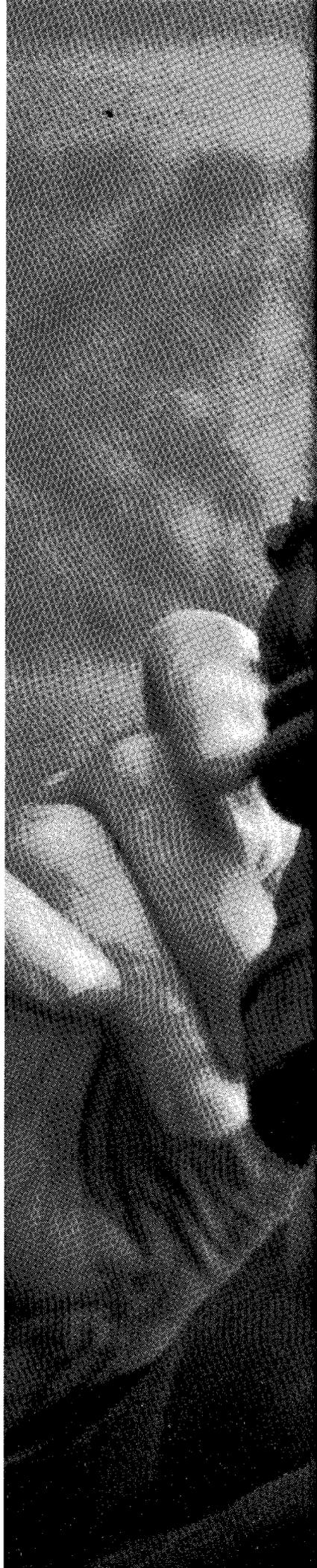
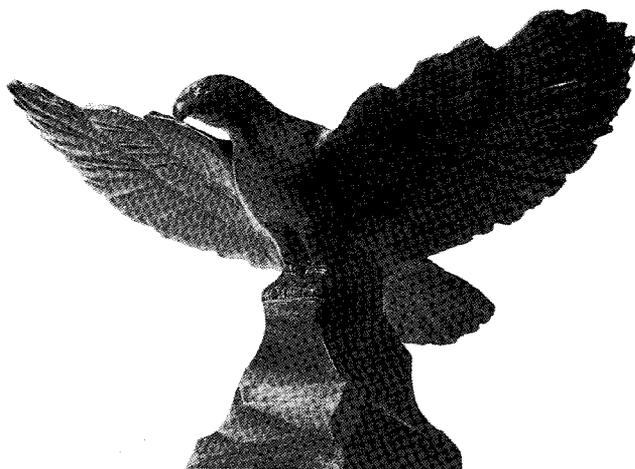
1957年に白内障の手術を受けている時、ボルパーク兄弟は右目の視力を失いました。当時のことを回想して、彼はこう言っています。「片目の視力を失ってもそれほど落ち込みませんでした。まだ仕事を続けることができましたから。」

さらに1966年、仕事をしている時に足を滑らせ、その拍子に頭を強く打ちました。その途端、左目の視力も失ってしまいました。その時のことを、彼

はこう表現しています。「自分の世界が突然消えうせたんです。まったくの暗闇くらやみというのは、ひどく怖かったですね。」

暗闇の中から

しばらくの間、ボルパーク兄弟は霊的なことに対する視力も失っていました。1921年に生まれ故郷のドイツでバプテスマを受けて以来、彼は福音を中心に人生を送っていました。しかし、その日の事故以来、「祈ることもできなくなったし、祈りたいという気持ちもなくなったんです」と彼は当時を寂しそうに回想します。「妻のエリーと一緒に祈ってほしいとどんなに願い続けても、私はその願いを聞かず、『目が見えなくなったことを神に感謝





しょうか』と悪態をついていたほどです。」

そのような霊的に暗闇の状態が、事故の後2週間ほど続きました。そんなある日の朝、エリーは仕事に出かける前に、いつものようにひとりで祈りを捧げました。ボルパーク兄弟はまだベッドの中でした。その日、祈りを捧げた後で、ボルパーク姉妹がフリッツの上にかがみこんでキスをすると、エリーの流した涙がフリッツのほほを伝いました。フリッツは妻のやさしさにとっても心を動かされました。「妻が車で出ていく音を聞きながら、私はベッドの上でひざまずきました。しかし、それでも祈れませんでした。」

ボルパーク兄弟は、ベッドの上に数時間も、ひざまずいたままでした。何度も声を出して祈ろうとしました。しかし、そのたびに、心の中にある何か、彼の祈ろうとする望みをくじこうとします。それでもなんとか努力をして、とうとう神に向かって祈り始めました。「自分の心が感謝の思いで満たされました。それまでいただいた数々の祝福を思い起こし、天父のおかげでたびたび自分の命が救われたことを思い出しました。こうして私は平安を取り戻しました。」

その時以来、ボルパーク兄弟は人生のさまざまな問題に打ち勝てるよう、信仰と祈りの力を行使し、従順かつ勤勉に努力してきました。彼は次のように言っています。「私は自分の目で物を見ることができなくなりました。しかし、神から助けをいただいて、自分の手と心で見ることができるようになったのです。」

芸術家の手

視力を失うまで、ボルパーク兄弟は、大工としての腕を生かして、第二次世界大戦で家を失ったドイツの末日聖徒のために家を建てていました。また、

教会の集会所の建築にも携わっていました。1956年にボルパーク家族はユタ州に移住し、7年後にはアメリカの市民権を取得しました。

1966年に視力を失ってからは、ボルパーク兄弟は大工の技術だけにとどまらず、木彫の技術も磨くことになりました。また、自分と同じような問題に直面している人々の力になりたいとも思いました。彼は、その気持ちをこう説明しています。「苦しんでいる人や、落胆している人の力になることを目標にしました。私は、障害を持つ人間でも働けるし、成功を収められることを、実際に示したかったのです。」数週間後、彼はユタ州ソルトレークシティにある盲学校の入学手続きをしました。

盲学校のゴードン・クレグ先生の言葉によれば、それまで多くの盲人に木彫を教えてきたが、フリッツ・ボルパークには特別な才能があった、ということです。「私がしたことと言えば、彼に自信を持たせることだけでした」というクレグ兄弟はさらに続けて、「目の不自由な人の場合、たいていそうなのですが、彼も最初のうちは機械を使うことに随分慎重でした」と言っています。

確かに危険を伴う作業ではありましたが、ボルパーク兄弟は、自分の指の感触で材木の形や木目を確認しながら、彫刻を進めていきました。何度も何度も材料の木をだめにしましたが、それでもあきらめませんでした。「何週間にもわたって失敗を繰り返した末、ようやく小さなチェスのこまがひとつ出来上がりました。」当時を回想して、ボルパーク兄弟はこう言っています。「1カ月後、手探りで彫り続けて、ようやく、チェス盤とチェス用テーブルを完成させました。」卒業の日、彼はそのチェスの道具を学校に寄付しました。そして、クレグ兄弟がその作品を州の作品展に出展すると、それが、最優秀賞に輝いたのです。

ボルパーク兄弟は、新しい技術を習得したことをきっかけに、次の目標に向かって進む自信がつかしました。その目標とは、同じような障害を持つ人々を助けて、成功へと導くことです。そのため、ボルパーク兄弟は、政府から資金援助を受けて、視覚障害者に木彫を教えるための作業所を開設しました。この作業所を通じて、彼は数多くのすばらしい経験をしました。中でも特に記憶に残っている出来事を紹介しましょう。それは、ある年のクリスマスの2週間ほど前、彼がひとりで過ごしていた時のことです。ボルパーク兄弟は妻のために特別なプレゼントを彫っていました。しかの木彫です。胴体の部分と細い足の部分は比較的簡単に完成したのですが、目の部分がとても彫れそうにありませんでした。

その時のことを、彼はこう言っています。「気分転換に立ち上がってみました。作業場の中を歩き回りながら、私は自分の大好きな賛美歌を歌い始めました。『絶えず頼り主求む』です。私は助けを求めて、声に出して神に祈り、また歌いました。」1時間以上歌い続けた後で、ボルパーク兄弟はのみと材料を取り上げました。しかし、どうしても目を彫り上げることができないのです。「どうしたらいいんだ。あきらめた方がいいのか」と自問を繰り返します。「そうではない、フリッツ。あきらめてはだめだ。もう一度やってみるんだ」と自分に言い聞かせます。しかし、のみを取り上げてはみたものの、目が彫り込めるほど気持ちを集中できないのです。彼はもう一度立ち上がって、もう1時間ほど歩き回りました。

「しばらくの間、私は歌ったり、泣いたり、祈ったりしていました。そして、それまで主からいただいた数々の祝福について考えてみました。それから、のみをもう一度取り上げました。私は震える手で目の部分にのみ

を入れました。そして数分のうちに、頭部全体が完成したのです。」

ボルパーク兄弟は、それ以来、木彫に関して問題はまったくなくなったと言っています。節くれ立った、しかしやさしさが伝わってくるような手で、自分の作った数々の作品を誇らしげに指差して教えてくれます。さまざまな動物、チェスのセット、家具、テーブルなどです。「朝早くから夜遅くまで、木彫のために作業場にいることがよくあります。」苦勞してしかを彫り上げた1年後には、ソルトレークシティのある美術館が、彼の傑出した作品を展示してくれることになったのです。

ボルパーク夫妻は、ハロルド・B・リー大管長に作品展に来ていただきたいと考え、特別な招待状を送りました。ところが、リー大管長の方が、ふたり



を大管長の執務室へ招待してくださったのです。今でもその時の訪問を思い出すと、ボルパーク兄弟の胸は熱くなります。その時は、リー大管長にプレゼントするために、野生の馬が丸太を跳び越える様子を木彫にしたものを作

って持って行きました。

ボルパーク兄弟の思い出話です。「私たちは大管長の執務室に入りました。しばらく話をした後で、大管長は私たちと握手してくださいました。そして立ち去ろうとする私に、大管長はこう言ってくださったのです。『あなたに私の祝福を授けます。平安があなたとともにありますように。』以来、リー大管長が約束してくださった平安を失ったことはありませんでした。きょうに至るまで、いつも心の中にその平安を感じてきました。」

ボルパーク兄弟の濃い緑色のひとみには、永年にわたるたゆまぬ努力によりもたらされた平安がうかがえます。年齢を重ねた顔にはしわも寄り、大きくがっしりとした体格には長年にわたる労働のために多少の衰えが見えますが、その気力は^{あかし}いまだ健在です。また彼の証は、教会での奉仕と犠牲を通して築かれた土台の上にしっかりと置かれています。

ドイツへの伝道

ボルパーク兄弟の奉仕の多くは、故国での伝道に費やされています。1969年、フリッツが作業所を開設して6週間後のことですが、監督がフリッツとエリーを監督室に招き入れ、ふたりにある質問をしました。しかし、監督は同じ質問を3回も繰り返すことになりました。こういう質問だったのです。「フリッツ、主はあなたたち夫婦と一緒に伝道に出るよう望んでおられます。それについてどう思いますか。」

ボルパーク兄弟はこう述懐します。「ショックでした。口も利けないほど。」彼は監督の質問に答えることができず、代わりにエリーに尋ねました。「君はどう思う。」

エリーはフリッツをじっと見詰めて、こう答えました。「あなたの決めることよ。私はあなたの目になるだけです



から。」

これを聞いて、ボルパーク兄弟は監督の方を向き、こう言いました。「監督、私たちは主が望まれる所ならどこへでも行きます。」

ボルパーク夫妻は間もなく、ドイツ中央伝道部へ赴任しました。ふたりのいちばん大きな責任は、会員の再活発化に協力することでした。ボルパーク姉妹はこう説明してくれました。「そうした人たちの多くが、特に感謝することもないからとか、別に何も必要としていないからといった理由で、祈りたいと感じていませんでした。でも、フリッツは彼らを励まして、自分たちが生きていることや神からいただいている数々の祝福に感謝できるよう、力になったのです。」

ボルパーク兄弟に最初に与えられた責任のひとつは、ゲルゼンキルヘンで支部長として働くことでした。最初、伝道部長から支部長の召しの話が来た時、ボルパーク兄弟はためらいました。「伝道部長、私の目が見えないことはご存じのはずです」と、伝道部長に伝えました。

それに対して伝道部長はこう答えました。「もちろん知っています。私だけじゃなく神もご存じです。」

結局ボルパーク兄弟は、1年後に軽度の心臓麻痺に襲われるまで、そこで支部長として働きしました。「その時、帰国した方がよいかどうか迷いました。でも、医師の診察を受けて、帰国しなくともだいじょうぶだと言われ、残ることにしたのです。」

1971年に伝道を終えて帰国し、エリーはソルトレーク神殿での奉仕を再開し、フリッツはもう一度作業場を開設して、作品を展示し始めました。人々がボルパーク兄弟の木彫の作品を見に次々に訪れて来ました。多くの人々は、目が見えない人がそのようなみごとな作品を作り出したとはとても思えないと驚きました。ボルパーク兄弟はそう

いう人たちにこう説明しています。「信じられないかもしれませんが、できないことではありません。でもそのためには、主に対する信仰と自分に対する自信を持たなければなりません。人種や信条がどうあれ、人は皆、神の子供であり、何らかの才能を携えて地上にきています。ためまず努力して、その才能に気づくかどうかは、私たち次第なのです。」

1975年に再び伝道の召しが来た時には、さすがのボルパーク夫妻も驚きました。今回は、ドイツ・フランクフルト伝道部でした。ところが、ほぼ時を同じくして、エリーが癌に冒されているとわかったのです。その時のことを、フリッツは次のように説明しています。「あの時に私たちが感じた恐怖は、だれにもわからないだろうと思います。妻は、1週間に3回も手術を受けました。ただ、不思議だったのは、妻が監督から受けた祝福の言葉です。監督は妻に、『エリー、あなたは回復し、神に仕えるためにフリッツとともに再び伝道に出るでしょう』と言ったのです。私たちは、監督がどうしてそのようなことを言えるのか、不思議に思ったのです。」

ボルパーク姉妹は手術後、健康を取り戻し、ふたりはフランスとの国境に近いドイツのフィルマーゼンズで1年半の伝道に携わりました。

この伝道から帰国後、1年もしないうちに、夫妻はまた家と作業場を後にし、3度目の伝道に出かけて行きました。このたびは、ドイツ・ミュンヘン伝道部で、ボルパーク兄弟はニュルンベルクの支部長に召されました。支部には記録上450人以上の会員がいましたが、定期的に出席していたのは、わずかに20人ほどでした。

ボルパーク夫妻は、問題の大きさをよく認識していましたが、同時にその解決策も心得ていました。信仰と祈りと従順な思いと勤勉な働きとにより、

ふたりは、あまり活発でない会員の訪問を集中して行ないました。ボルパーク兄弟の驚きの声です。「奇跡が起きました。支部が大きくなり始め、数カ月後には、3つの支部に分割されました。フォイトとフェルスとニュルンベルクです。私は、それが神の祝福と助けによって起こったのを知っています。私たちは、神のみ手の中の器にすぎなかったのですから。」

神のために、学ぶために

帰国後、ボルパーク夫妻は10年ほど日曜学校の教師として働きました。フリッツにはテキストを読むことができなかつたため、エリーが教師用手引きと聖句をテープに録音しました。それから、フリッツがテープを何回も聞き、エリーと一緒に8時間ほどかけて研究したものです。フリッツはその様子をこう説明しています。「私が生徒に対する質問を考え出し、それをテープに吹き込みます。それから、その質問を暗唱します。そうすれば、ふたりで一緒にクラスを教えることができますから。」ふたりが最終的にこの責任を解かれたのは、ボルパーク兄弟が体調を崩し、毎週の責任を続けることができなくなつた時でした。

ボルパーク夫妻は、教会で受けた責任はすべて楽しい経験だった、と言っています。ボルパーク兄弟の言葉です。「私たちは自分たちの時間を、ひたすら神と教会、そして学ぶために使ってきました。そして、そのことに満足しています。でも、私たちがこうしてみ業に携わってこられたのも、私たち自身の力ではなく、祈りの力と神の助けがあったからです。神とエリーの助けがなかったら、私にはとうてい成し遂げられませんでした。神の助けがなければ、心の中に霊の目を持つこともできなかつたでしょう。」□



「昇天」 ハリー・アンダーソン画

「イエスの上って行かれるとき、〔使徒たち〕が天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて言った、『ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天の上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう。』」（使徒1：10-11）



「わらは柔らかいうちに編むんです。古くなると折れやすくなって、曲がりませんから。」麦わら細工の人形を作るときばかりではない。福音の下で信仰のあつい子供たちを育てるときにも、この原則は当てはまる。(本誌「愛と福音で編み上げる」p. 38参照)

